

令和7年度第5回 朝霞市都市計画審議会 次第

日時 令和7年12月24日（水曜日）

午後2時00分から5時00分（予定）

場所 ゆめぱれす（朝霞市民会館） 会議室201

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

- ・議案第1号 朝霞市都市計画マスタープランの策定について

4 その他（報告事項）

- ・報告事項第1号 朝霞都市計画生産緑地地区の変更について（経過報告）
- ・報告事項第2号 公共交通空白地区における取組状況について

5 開 会

(1) 前回都市計画審議会で頂いたご意見とその対応方針

<令和 7 年度第 4 回朝霞市都市計画審議会>

日時：令和 7 年 10 月 27 日（月）14：00～17：00

場所：朝霞市役所 別館 5 階 大会議室（手前）

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
●【安全・安心】について			
1	全体構想の方針図、緊急輸送道路の無電柱化の促進について、シンボルロードを点線で囲っているが、全体でやっていくことではないか。	市として優先順位が高く、地図上に落とせる取組としてシンボルロードを図示している。一方で市全域の取組として「朝霞市無電柱化推進計画に基づく緊急輸送道路の無電柱化の促進」に修正する。	P.30
2	全体構想の柱⑨「自助・共助の体制強化」の名称に「公助」も加えるべきではないか。	「公助」については、他の取組の柱で整理している。ここでは「共助」に主眼を置いた取組の整理をしていることから柱の名称を「共助の体制強化」に見直す。	P.31
●【自然・環境】について			
3	内間木、田島は産業廃棄物置場がある、もしくは、地下埋設物の存在や負の遺産であることが課題であることを記載すべきでは。	内間木（大字田島含む）土地利用の状況の凡例に（産業廃棄物処理施設を含む）の追加及び「新河岸川産業廃棄物処理対策地がある」を記載する。	P.62
4	全体構想の柱①に脱炭素が追記されているが、20年計画であることを念頭に、このまま追記するのか検討されたい。	取組として読み取ることができるため、ご意見を踏まえて「脱炭素」を削除する。	—
5	全体構想「■豊かな自然を育みつなぐ」の④から⑥の名称が他とバランスが取れていないのではないか。	みどりの基本計画に揃えたが、再度検討し ④暮らしを支え豊かにするみどりの保全・育成 ⑤みどりを支える仕組みの強化 ⑥みどりのある暮らしの実践とする。	P.36
6	クリーンセンターの跡地はどのような取り扱いにするのか都市マスとして結論を出すべきでは。	現在、朝霞和光資源循環組合で所有しており、ごみ処理広域化基本構想に基づき資源循環社会形成に向け、資源物のリサイクルの拠点として活用を検討することとしている。そのため、将来都市構造図の利活用の核となるエリアにおいて、「産業（商業・工業を含む）機能を確保することやリサイクル拠点の検討等、沿	P.24

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
		道土地利用の促進を図ります」という記載に修正する。	
●【快適な移動】について			
7	中央通線や下ノ原通線、黒目川通線などの都市計画道路について、どの部分をどうしていくかわかりづらい。	現時点で明確な方針が定まっておらず、図示が困難であることから全体構想で「見直し」という表現としているほか、地域別構想において、「長期未整備都市計画道路の見直し」を追加した。	P.41 P.67 P.70 P.77 P.80 P.87 P.90 P.97 P.100
8	南部地域のまちなかベンチの図示については、ここに限ったことではないので再考いただきたい。	まちづくりサロンでの意見を具体的に図示したが、全体構想に全体での取り組みとして記載する。	P.43 P.47
9	学校や保育園、大学、ホンダ、新電元の周辺道路への交通安全施策の配慮について、どこかに入れ込んでいただきたい。	柱⑤として通学路を特出ししているが、全体の交通安全については柱④に包含している。具体的に歩行者が多いところや子供が通る場所を例として記載する。 （取組「ゾーン 30・ゾーン 30 プラスエリアの指定による面的な交通安全対策」の特徴の記述に記載）	P.77 P.87 P.90 P.97 P.107
10	朝霞台駅の建替とは何のことなのか	東武鉄道が検討している朝霞台駅の建替えのこと。具体化は未定だが、都市マスが 20 年計画であることを踏まえて記載している。	各所
●にぎわい・活力			
11	内間木地域は農業の担い手が減り、維持管理ができなくなり、商業も公共施設も少ない中、取組としてはざっくりと 254 バイパスで活性化といった内容だが、もう少し具体的な取組の記載になっていると希望が持てる。 （私らしい暮らしと共通）	現時点で計画が決まっていないため、全体構想としては、具体的な記載は難しく、「にぎわい・活力」の⑥に含まれることとする。地域別構想においては、国道 254 号バイパス沿道の土地利用について（案）に基づき「にぎわい・活力」の取組にカッコ書きで追記する。「254 沿道活性化に向けた検討（商業施設や芸術・文化・スポーツ等を主体とした観光・レクリエーション施設などの設置を目指した地区計画の設定等）」	P.68

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
12	地域資源として、朝霞調節池、朝霞水門が記載されているが、人が集まる施設とは思えない。	まちづくりサロンでも魅力的な場所なので生かしたいとの声があり掲載している。	P.64 ほか
13	朝霞調節池が正式では	すべて朝霞調節池に統一する。	P.64 ほか
14	改善すべき課題として「浄水場によりまちが分断されている」と記載されているが、特徴や特色として整理すべきでは。	浄水場は施設の性格上、不特定多数の人の出入りが制限される施設であるため、ご意見を踏まえ、本編の整理の際に「改善すべき課題」から「地域の特徴」とするなど、表現を見直す。	P.78
●私らしい暮らし			
15	（仮称）浜崎ふれあい公園について触れるべきではないか	みどりの基本計画と連携し、地域別構想の北部地域のテーマ「自然・環境」において、「（仮称）浜崎ふれあい公園の用地を含めた緑地や農地の有効活用の検討」を記載する。	P.76
16	全体構想の「■私らしくいられる場…」に含まれる柱の名称に、例えば新たな価値の創出を促すような企業や個人との共創を促進するといったようなソフト面のテコ入れのような文言があると良い。	意見を踏まえ、取組の柱⑨のタイトルを「多様な主体の共創による新たな価値の創出」に修正する。 （※本編の整理において、取組の柱に対する具体的な取組内容を示すため、ソフト的な取組を行うことは理解できると思われる。）	P.55
17	内間木地域は農業の担い手が減り、維持管理ができなくなり、商業も公共施設も少ない中、取組としてはざっくりと254バイパスで活性化といった内容だが、もう少し具体的な取組の記載になっていると希望が持てる。 （にぎわい活力と共通）	現時点で計画が決まっていないため、全体構想としては、具体的な記載は難しく、「にぎわい・活力」の⑥に含まれることとする。地域別構想においては、国道254号バイパス沿道の土地利用について（案）に基づき「にぎわい・活力」の取組にカッコ書きで追記する。「254沿道活性化に向けた検討（商業施設や芸術・文化・スポーツ等を主体とした観光・レクリエーション施設などの設置を目指した地区計画の設定等）」	P.68
18	内間木地域の「・合併処理浄化槽…」はどのような意図で表現しているのか。	市街化調整区域は、下水道（污水）が整備されていないため生活排水を河川に流さざるを得ない。合併浄化槽を整えることで公衆衛生と水質保全を確保し、安心して健康的に暮らすことができるた	P.69

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
		め記載している。	
19	「地域に開かれた浄水場」は別の表現にした方が良い	ご意見を踏まえ、「東京都（浄水場）との協力・連携」に修正する。	P.55 P.79
●その他			
20	安全安心の地域の特徴について、朝霞水門と朝霞調節池は川の氾濫を防ぐもので内水対策としては役に立っていないのに「良いところ」として整理するのは違和感がある。また、地域の特徴が改善すべき課題が多かったり、課題が無かったりするの誤解を生むので整理の仕方を再考したほうが良い。（自然環境含む）	朝霞水門と朝霞調節池は荒川、新河岸川、黒目川の河川水位の調整を行っており、市内の水害発生を抑制している効果はある。 地域の特徴については、地域ごとに誤解を招かないような表現に見直しし、本編の整理に反映する。	P.66 P.68 P.69
21	区域区分や市街化区域についても触れていくべきでは。 （要望）用途地域のきめ細かな変更にも踏み込んで表現されたい。	5章において、将来像の実現に向けた推進方策の1つとして記載するとともに、本市において想定される使い方も含めて整理する。	P.116 P.117
22	将来像の文章が長くて頭に入らない	将来像ではなく「まちづくりの方針」としてはどうかとの意見を踏まえ、将来像のキャッチフレーズは示さず、前回都計審で整理した内容を方針として記載する。（「方針」とすることで全体構想のテーマ別の整理と流れが揃う）	P.64 ほか
23	将来像を「〇〇な▲地域」とするとキャッチフレーズ感が出てしまうのではないか。		
24	将来像という表現はやめ、「まちづくりの方針」としてはどうか		
25	将来像に「基地跡地」という言葉はふさわしいのか。	場所を示す言葉として定着しているため、このままの記載とする。	—
26	将来都市構造図の「みどりの軸」に「みずの軸」と「みどりの軸」が包含されているが、紛らわしいので表現を見直すべき。	みどりの基本計画と合わせ、「みどりの軸（河川軸、道路軸）」とする。	P.22 ほか
27	将来都市構造図のみどりの拠点については、例えば「島の上公園」を中心とした拠点など、場所の補足がないと理解ができない箇所がある。	みどりの基本計画と合わせ、拠点名を明記する。	P.22 ほか
28	将来都市構造図の「産学官連携ゾーン」の名称は見直すべき。福祉施設を「産」とひとくくりにしてよいのか。	現状を踏まえ「産学官連携ゾーン」の説明として福祉施設との連携についても併記する。	P.24

(2) 勉強会及び庁内検討委員会で頂いたご意見とその対応方針

■勉強会及び庁内検討委員会の概要

○勉強会

日 時：令和 7 年 11 月 13 日（木）13：30～15：00

場 所：朝霞市役所 別館 5 階 大会議室（奥）

参加者：朝霞市都市計画審議会委員及び臨時委員、朝霞市議会議員

○庁内検討委員会

日 時：令和 7 年 12 月 4 日（木）11：00～12：00

場 所：朝霞市役所 別館 5 階 大会議室（奥）

■頂いた意見とその対応方針

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
●勉強会			
【将来像と取り組むまちづくりのテーマ】			
1	都市マスのつかみとなる平易で簡潔なキャッチワードがあるとよい。「だれもが誇れる暮らしつづきたいまち朝霞」を踏まえて、朝霞市が目指す5つの目標テーマを以下のようにしてはどうか。 ① 私らしく活躍できるまち ② にぎわいのあるまち ③ 人にやさしい交通アクセスのあるまち ④ 自然豊かで環境に優しいまち ⑤ 安全 安心に暮らせるまち(防災 防犯)	頂いたご意見を踏まえ、各テーマの方針に反映する。	P.20 P.27 P.33 P.39 P.45 P.51
2	あずま北の土地利用はどのようになるのか	本年 8 月に任意団体としてまちづくり協議会が発足し、土地整備・土地活用を検討しているところである。そのような背景も踏まえ、市としては、将来都市構造図において、利活用の核となるエリアとして設定する。	P.22
3	冊子の読み方や使い方のガイドがあると良い	引き続き本編整理に際し、工夫する。 第 3 章「テーマ別まちづくり方針」の冒頭に方針の見方を追加する。	P.25～26
4	総合計画との関連についての表記はどのように行うのか。	第 5 章のまちづくりの評価と進行管理として、総合計画における指標等を活用するなど、総合計画と連携して定期的なモニタリングを実施することを記載する。また、各テーマ別方針の整理において、方針に対応する総合計画の施策を参考として整理する。	P.28 ほか

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
【安全・安心】			
5	自助、公助に加え、共助も必要ではないか。在宅避難している人の把握、マンションとの関係（避難所がいっぱいにならないか等）	ご指摘のとおり、自助・公助・共助いずれも重要と考えている。一方、都市計画マスタープランであることを踏まえ、共助に絞って整理をする。具体的に提案いただいた、在宅避難やマンションとの関係性については、個別計画にて対応する。（担当部署とは共有する）	P.31
【自然・環境】			
6	方針に基づく基本的な考え方「③朝霞らしい風景を守り育てる」に「乱開発を防ぎ」の要素があってもいいのではないかな。	市としては、周辺環境に影響を及ぼす恐れのある土地利用（乱開発）の抑制に関しては近隣住民への説明義務、緑化や景観への配慮を求めた開発手続き条例に基づき対応している。開発そのものを抑制することは難しいため、条例に基づく配慮について、取組の柱⑧に、「開発事業等における緑化や景観への配慮指導」を追加する。	P.37
7	「景観づくり重点地区の指定の検討」の意味が分からない。「景観の保全を進める」ということで、指定はそのための手段ではないか。	ご指摘を踏まえ、「景観の保全を進めるための景観づくり重点地区の指定の検討」に修正する。	P.37
【快適な移動】			
8	市全体を対象にバリアフリーを考えてほしい。	バリアフリーは重要な観点と認識しており、快適な移動の取組の柱⑧に記載している。	P.43
9	歩道整備に限らず、信号、路面標示、施設案内板などのわかりやすさで、人にやさしく、わかりやすいウォーカブル施策を展開してほしい。	歩道整備以外の、標示等によるわかりやすさの観点として、快適な移動の取組の柱⑧においてユニバーサルデザイン化を位置付けている。	P.43
【にぎわい・活力】			
10	【にぎわい・活力】 「地域資源」とあるがもう少し具体的に「歴史的資源、空き家、空き店舗を活用した商業活動の活性化」としてはどうか	全体構想 【にぎわい・活力】 の方針に基づく基本的な考え方③「地域資源を生かして活力を創出する」の説明文について、ご指摘を踏まえ以下のとおり修正する。 （説明文の修正） 黒目川や基地跡地、川越街道の宿場等の自然環境や歴史・文化資源、空き地、空き家、地域の商店街等の地域資源を活用し、にぎわいづくりや地域資源の活性化を図ります。	P.46

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
【私らしい暮らし】			
11	黒目川含めた回遊性について、何か書けると良い。(県土事務所の前面道路を歩行者天国にできないか)	駅・黒目川・公共施設の回遊性向上について位置付けた。具体の個所の歩行者天国化等については、個別計画において検討する。	P.54 ほか
12	方針に基づく基本的な考え方「 ② 暮らしを支える生活サービスの質を高める」において、「広域型都市機能の充実」、「地域型都市機能の充実」、「柔軟な機能確保」とあるが何をさしているのかわかりにくいので、表現を再検討してはどうか。	方針に基づく基本的な考え方「 ② 暮らしを支える生活サービスの質を高める」では、生活サービスを柱④では「市民全体を対象とした広域サービス」に関するもの、柱⑤では「地域を対象にした地域サービスに関するもの」に分けて整理し、柱⑥では④と⑤のサービス機能を確保するための方法を示している。 上記の内容を理解してもらえよう柱④～⑥のタイトルを以下のように修正する。 柱④：市民全体の暮らしを支える広域サービスの確保・充実 柱⑤：身近な地域サービスの確保・充実 柱⑥：既存の土地や建物を活用した生活サービスの確保	P52 P54
13	ライフステージごとに足りない視点がないか確認が必要。		
14	具体的な取組が見えにくい。		
【地域別まちづくり構想】			
15	254 BP 沿道の活用についてももう少し具体的にやりたいことを盛り込んでも良いのでは。	現時点で計画が決まっていないため、全体構想としては、具体的な記載は難しく、「にぎわい・活力」の取組の柱⑥に含まれることとしたい。地域別構想においては、国道 254 号バイパス沿道の土地利用について（案）に基づき「にぎわい・活力」の取組にカッコ書きで追記する。	P.68
16	バイパスが整備されたのち、まちが分断される懸念がある。	内間木地域のテーマ「私らしい暮らし」における特徴の 1 つにご指摘のあった「バイパス整備による地域分断が懸念される」を追記する。	P.69
17	「わくわくワゴン」と限定せず、全体構想の記述を少し膨らませて「多彩な移動手段の充実と新しい技術の導入検討」としてはどうか。	ご指摘を踏まえ、「地域と連携した多様な移動手段の検討（わくわくワゴン等）」に修正する。市として現在取り組んでいるわくわくワゴンについて明記をしたいと考えており、例示として言葉は残す。	P.87
18	「市道 1 号線では・・・」は、「狭あい道路のガードレール・側溝等の改修による歩行者空間の改善」のような一般論がよいのではないのか。	ご指摘を踏まえ、「市道 1 号線等のガードレール・側溝等の改修による歩行者空間の改善」に修正する。	P.97

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
【計画の推進に向けて】			
19	都市施設や土地利用など、都市計画にかかる部分を抜き出したページを作ってはどうか。	第5章において、既存制度の適切な活用・運用の中で整理する。	P.116～118
20	A I を使って文言の整合を図ってはどうか。	AI などを活用し、効率的に文言の整合を図っていく。 また、今後も AI 等の最新技術をまちづくりに生かしていく観点を第5章における「最新技術を活用したまちづくりの推進」の項目に追加する。	P.120
【その他】			
21	重点施策（まちづくりのポイント的なもの）が何なのかわかるようにしてはどうか。	概要版を整理する際は、テーマごとの方針に基づきポイントを絞ってまとめるなど工夫する。	—
22	駅周辺は各地域にまたがる場所でもあるので、駅周辺エリアを個別に抜き出しても良いのではないかと。	計画書のボリュームを考慮し駅周辺エリアとしての整理は行っていないが、取組総括図を作成し、その中で駅周辺の取り組みが一目でわかるよう工夫する。	—
23	色が多すぎてもわかりにくいので、メリハリをつけたほうが良い	引き続き本編整理に際し、工夫する。	—
24	概要版はカジュアルにしてほしい	概要版整理の際に工夫する。	—
25	広く知ってほしい箇所はアイコンを使うなどの工夫があると良い	引き続き本編整理に際し、工夫する。	—
26	マンションが乱立しているが、人口増加に歯止めをかけるべきでは。	本市の人口の自然動態は既に自然減の局面に入ってきており、社会動態についても、本市への主要な人口供給元と考えられる東京都の人口が減少に転じると推計されている中、次第に転出入均衡へと向かっていくと想定されるため、今後は現在の人口増加の傾向を可能な限り維持していくとともに、いずれ訪れる人口減少局面に備えている。	—
27	本町地区はマンションが増えて緑が減少し、自然景観が衰退していることが課題	地域別構想の南部地域のテーマ「自然・環境」において、地域の特徴として「マンションが増加し緑が減少している」を追加する。	P.106
●庁内検討委員会			
【計画の推進に向けて】			
28	指標は必ず必要なのか。指標によって何を得たいのか。	現行計画の課題として、指標が設定されず適切に進行管理ができていなかった。そのため、新しい計画では指標を設定し、進行管理を行っていく。	P.113～114

番号	ご意見（要約）	対応方針	素案 該当ページ
29	総合計画より指標数が多いが問題ないか。	都市マスは総合計画に則すものであり、まちづくりに関する個別計画であるにとらえると、指標が多様になることは問題ないと考えている。	
30	指標は10年間不変のものを設定できているか。	必ずしも不変とは言えないが、できる限り設定した指標をモニタリングできるよう関係課と調整していく。一方で、指標として計測が難しくなる可能性もありうるため、注釈として記載する。	
31	指標の「地域コミュニティ」に唐突感がある。	いただいたご意見を踏まえ指標を見直す。	
32	まちづくり条例は、開発手続き条例など個別の計画を指すこともあり、当市ではすでにまちづくり条例があるという見方もできる。まちづくり条例を策定するように見えてしまうので書き方について注意すべき。	まちづくり条例ではなく、まちづくりに関する条例と表現することとし、朝霞市でも現状適切に運用していることがわかるよう表現を見直す。	P.118

朝霞市都市計画マスタープラン (素案)

令和 7 年 12 月 17 日時点

目 次

序章 朝霞市都市計画マスタープランとは.....	1
1 朝霞市都市計画マスタープランとは.....	1
2 計画の位置づけ.....	1
3 計画の対象範囲.....	2
4 計画の目標年次.....	2
5 計画の構成.....	2
第1章 朝霞市のまちづくりに求められること.....	3
1 市民の意向.....	3
2 朝霞市を取り巻く社会動向.....	11
第2章 朝霞市の将来像と取り組む まちづくりのテーマ.....	17
1 朝霞市の将来像.....	17
2 将来像の実現に向けて取り組むまちづくりのテーマ.....	19
3 まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図.....	21
第3章 テーマ別まちづくり方針.....	25
1 テーマ「安全・安心」.....	27
2 テーマ「自然・環境」.....	33
3 テーマ「快適な移動」.....	39
4 テーマ「にぎわい・活力」.....	45
5 テーマ「私らしい暮らし」.....	51
第4章 地域別まちづくり構想.....	57
1 地域区分と地域別まちづくり構想の構成.....	57
2 内間木地域.....	61
3 北部地域.....	71
4 東部地域.....	81
5 西部地域.....	91
6 南部地域.....	101
第5章 計画の推進に向けて.....	111
1 多様な主体との“協働”によるまちづくり.....	111
2 まちづくりの評価と進行管理.....	113
3 将来像の実現に向けた推進方策.....	116

序章 朝霞市都市計画マスタープランとは

1 朝霞市都市計画マスタープランとは

市民の暮らしや事業者の活動を支える良好な都市環境を実現するためには、まちづくりのビジョンを定め、そのビジョンに沿って道路・公園・下水道といった身近な公共施設の整備・改修や、工業・商業・住宅等の土地の使い方等を定めることが必要です。

このようなルールや計画を定めたものが「都市計画」であり、市民の意見を踏まえたまちづくりの基本的なビジョンを定めたものが「都市計画マスタープラン」です。

本市の都市計画マスタープランは平成 17（2005）年 3 月に当初計画を策定し、その後社会・経済状況や市民ニーズの変化等を踏まえ平成 28（2014）年 11 月に見直しを行ってきましたが、令和 7（2025）年に目標年次を迎えました。また、人口減少・少子高齢化、情報技術等の進展、広域道路ネットワークの形成、自然災害の頻発化・激甚化等まちづくりを取り巻く環境の変化が進んでいること、新型コロナウイルス感染症の発生により、暮らし方・働き方、さらにはその生活への意識等の価値観の変容が起きていること等を踏まえ、これらの変化・変容に対応した持続可能なまちづくりの実現に向けた手段を明確にするため、令和 8（2026）年度から始まる次期朝霞市都市計画マスタープラン（以下、「本計画」という。）を策定します。

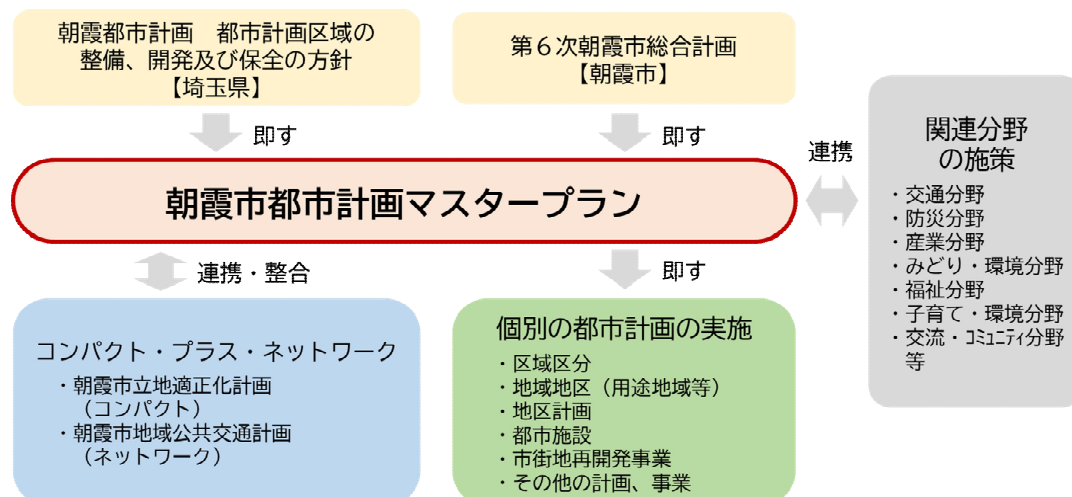
本計画では、概ね 20 年後を展望し、市域全体の目指す将来像とテーマ別まちづくり方針を示した「全体構想（第 2 章及び第 3 章）」と、地域別のまちづくり方針を示した「地域別構想（第 4 章）」で構成されています。

2 計画の位置づけ

本計画は、「朝霞都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」及び「第 6 次朝霞市総合計画」に即して策定するものであり、本市におけるまちづくり分野の最上位の方針です。

また、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方で本市の都市構造の転換を図る「朝霞市立地適正化計画」及び「朝霞市地域公共交通計画」のほか、子育て・教育、福祉・健康、文化振興、防災等、関係性のある分野と連携・整合を図ります。

■朝霞市都市計画マスタープランの位置づけ



3 計画の対象範囲

朝霞市全域を対象とします。

4 計画の目標年次

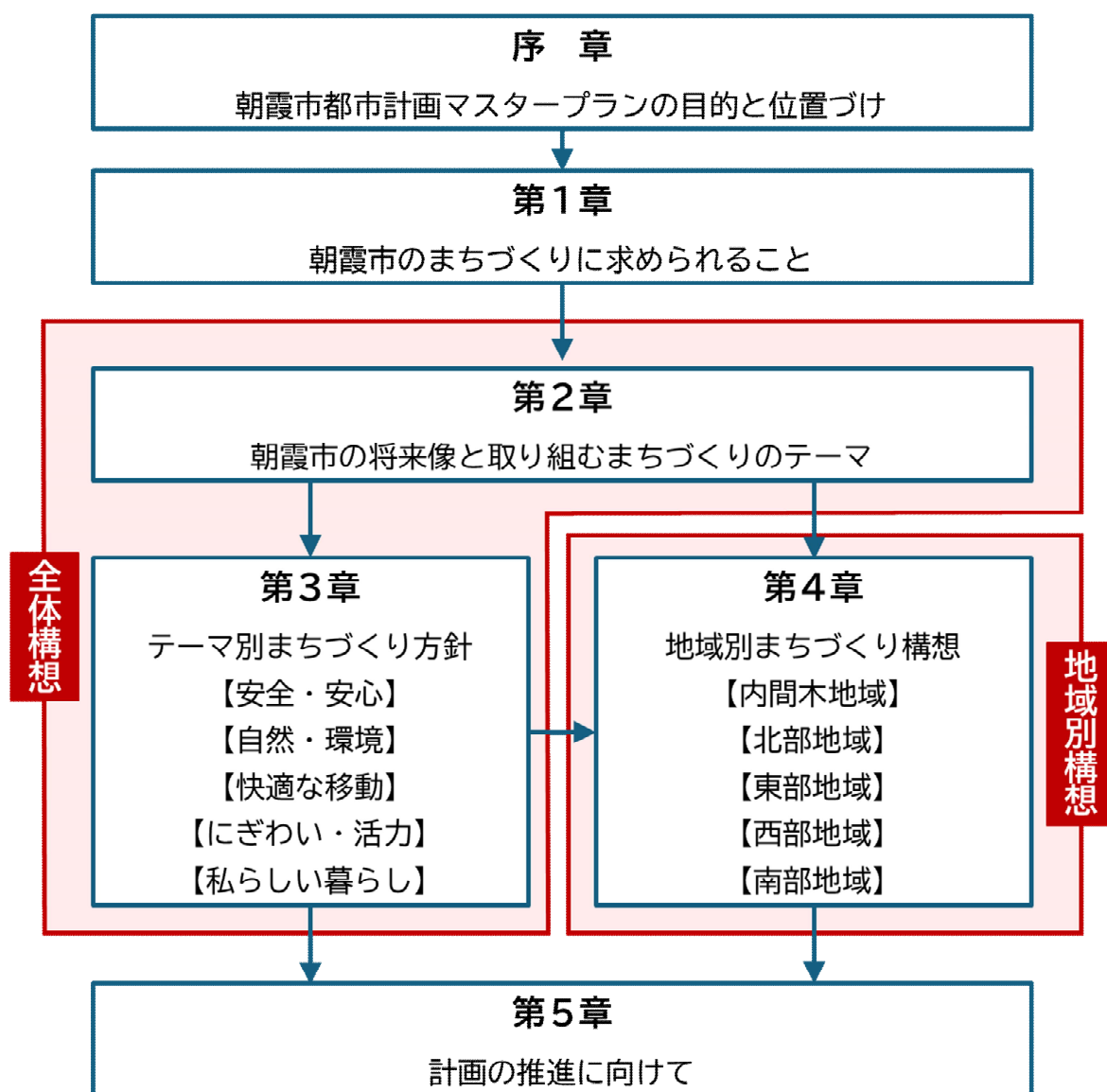
目標年次は概ね 20 年後を展望し、令和 28（2046）年とします。

なお、社会経済情勢の変化や、まちづくりに関わる技術の急速な進展等を踏まえ、概ね 5 年ごとに都市に関わる基礎的調査を実施し、必要に応じて見直しを行います。

5 計画の構成

本計画は、次のとおり基本事項を定める序章（本章）と 5 つの章で構成されています。

■本計画の構成



第1章 朝霞市のまちづくりに求められること

1 市民の意向

本計画の策定にあたっては、市民の皆さまの声を十分に反映するよう、市民参画機会の充実を図っています。

ここでは、市民参画のうち市民意識調査、アンケート調査及びまちづくりサロンの結果から住環境や都市基盤整備、都市環境等、よりよいまちづくりにつながる主な内容を整理します。

(1) 第6次朝霞市総合計画の策定にかかる市民意識調査

本市では「第6次朝霞市総合計画」の策定にあたって、まちづくりに対する市民の意向を把握し、基礎資料として活用するために、市民意識調査を行っており、本計画にもこれを活用します。

■調査概要

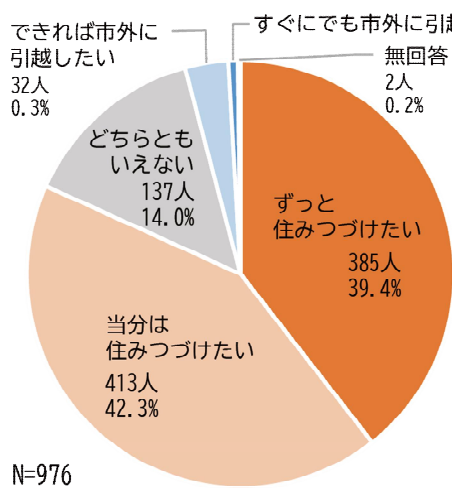
調査対象	市内居住の18歳以上の男女	
対象者数	3,000人	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用	
調査期間	令和5（2023）年11月24日（金）～12月25日（月）	
調査項目	①朝霞市の住みよさについて ②地域との関わりについて ③市政について	④市の全般的な取組について ⑤これからのまちづくりにについて ⑥自由意見
回収結果	有効回収数 976票（郵送回答：743票、Web回答：233票）/3,000票 有効回収率 32.5%	

■結果概要

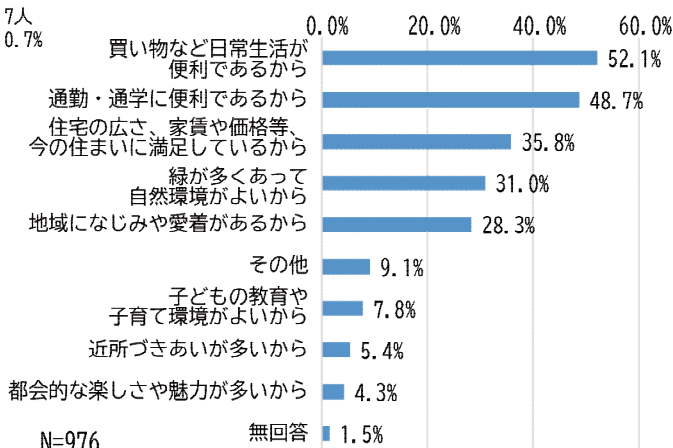
①朝霞市の住みよさについて

本市への定住意向について、“住みつづけたい”（「ずっと住みつづけたい」「当分は住みつづけたい」）と思う人が80%以上を占めているのに対し、“住みつづけたくない”（「出来れば市外に移りたい」「すぐにでも市外に移りたい」）と思う人はわずか4%程度となっています。

“朝霞市に住みつづけたい”理由を尋ねたところ、住宅の条件を除き、「買い物など日常生活が便利であるから」「通勤・通学に便利であるから」「緑が多くあって自然環境がよいから」が多く挙げられています。



本市への定住意向について（単一回答）

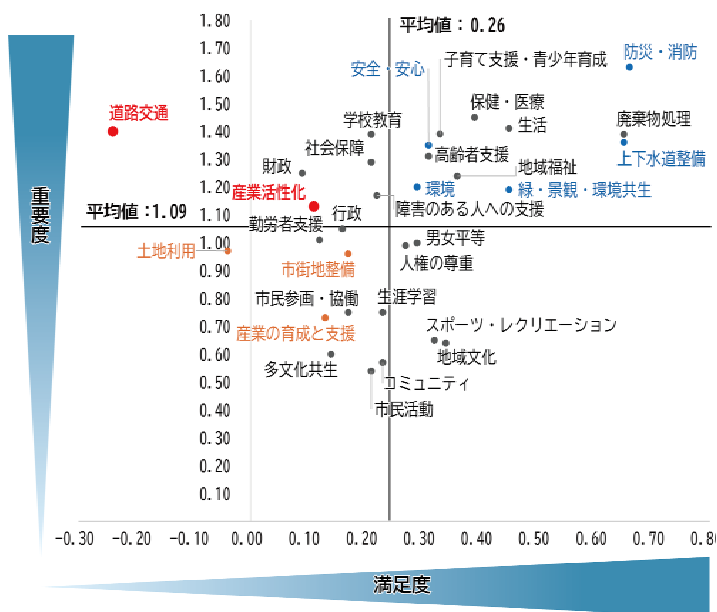


本市に住みつづけたい理由について（複数回答）

②市の全般的な取組に対する評価について

市の全般的な取組に関する満足度・重要度について、満足度が平均値以下かつ重要度が平均値以上の項目のうち、まちづくりと関わりのある項目は「道路交通」と「産業活性化」が挙げられています。そのほか、満足度が平均値以下で、状況に応じて取り組むべきと考えられる項目として、「土地利用」「市街地整備」「産業の育成と支援」が挙げられています。

一方、重要度・満足度がともに平均値以上で本市の強みとみられる項目のうち、まちづくりと関わりのある項目は「防災・消防」「上下水道整備」「緑・景観・環境共生」「安全・安心」「環境」が挙げられています。

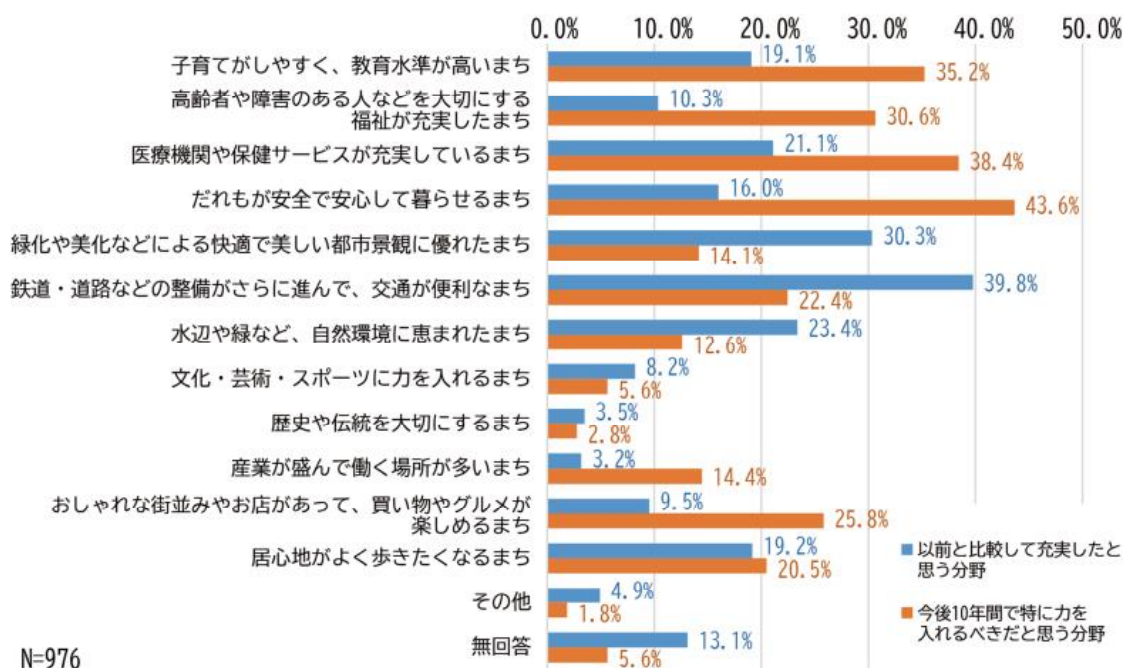


市の全般的な取組に対する評価について

③朝霞市のまちづくりに対する評価と要望について

「以前と比較して充実したと思う分野」について、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」「緑化や美化などによる快適で美しい都市景観に優れたまち」が多く挙げられています。

「今後10年間で特に力を入れるべきと思う分野」について、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」が40%以上と最も多く挙げられ、次いで「医療機関や保健サービスが充実している」「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」が挙げられています。



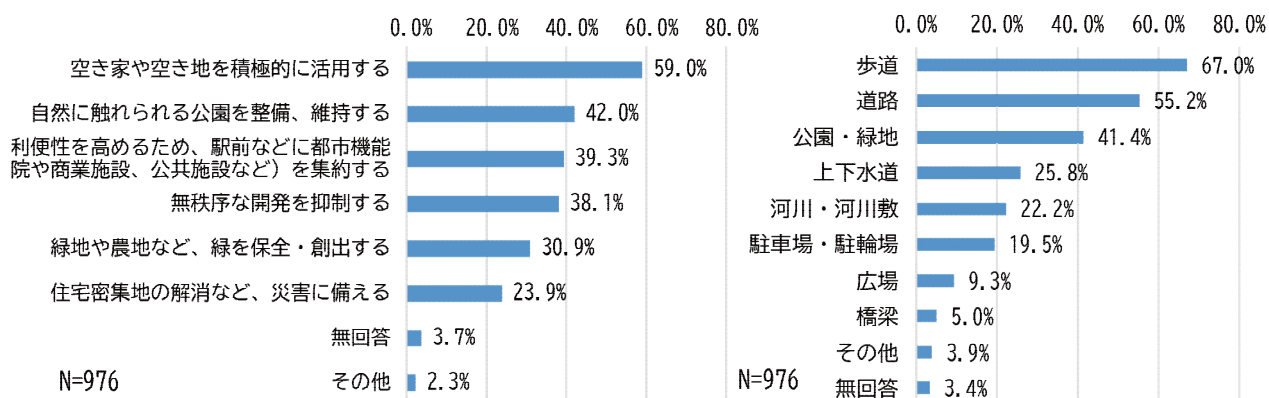
本市のまちづくりに対する評価と要望について（複数回答）

④今後の土地利用について

今後の望ましい土地利用として、「空き家や空き地を積極的に活用する」が最も多く挙げられたほか、「自然に触れられる公園を整備、維持する」「利便性を高めるため、駅前などに都市機能（病院や商業施設、公共施設など）を集約する」等も多く挙げられています。

⑤都市基盤整備に対する要望について

市内の都市基盤の維持・整備に力を入れるべきと思われるものとして、「歩道」と「道路」が最も多く挙げられ、そのほか「公園・緑地」等も多く挙げられています。



今後の土地利用について（複数回答）

都市基盤整備に対する要望について（複数回答）

(2) 朝霞市都市計画マスタープラン策定にかかる市民アンケート調査

本計画をより市民の暮らしに寄り添った計画とするため、現在の暮らしの状況や将来のニーズを把握する市民アンケート調査を行いました。

■調査概要

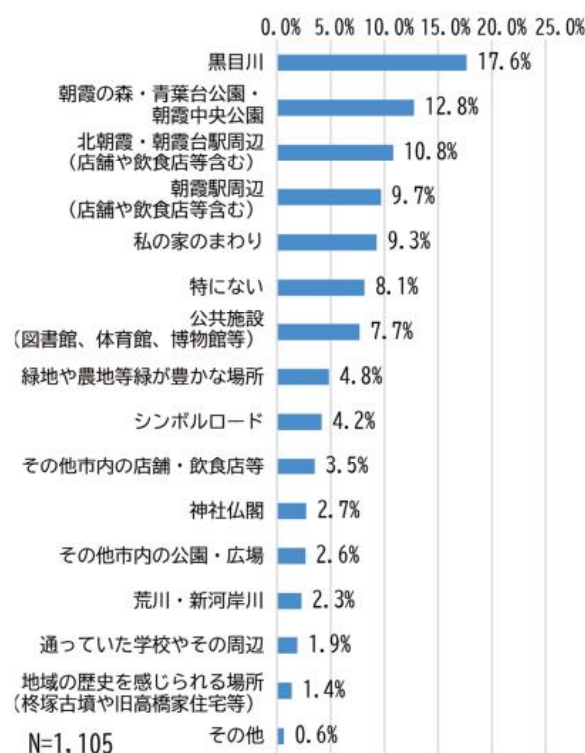
調査対象	市内在住の18歳以上の方	
対象者数	3,000人	
抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
調査方法	郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用	
調査期間	令和6（2024）年3月25日（月）～4月30日（火）	
調査項目	①暮らし方の状況とニーズについて ②住まい方の状況とニーズについて	③自由意見
回収結果	有効回収数 1,105票（郵送回答：617票、Web回答：488票）/3,000票 有効回収率 36.8%	

■結果概要

①朝霞市内で「大切に思う場所」について

市内で「大切に思う場所」については、「黒目川」が約18%と最も多く挙げられています。そのほか、「朝霞の森・青葉台公園・朝霞中央公園」、「北朝霞・朝霞台駅周辺」、「朝霞駅周辺」等も多く挙げられています。

「黒目川」が挙げられた理由としては、「朝霞の自然や緑が残っている」、「落ち着く、心が穏やかになる」等が挙げられています。



市内で「大切に思う場所」について（複数回答）

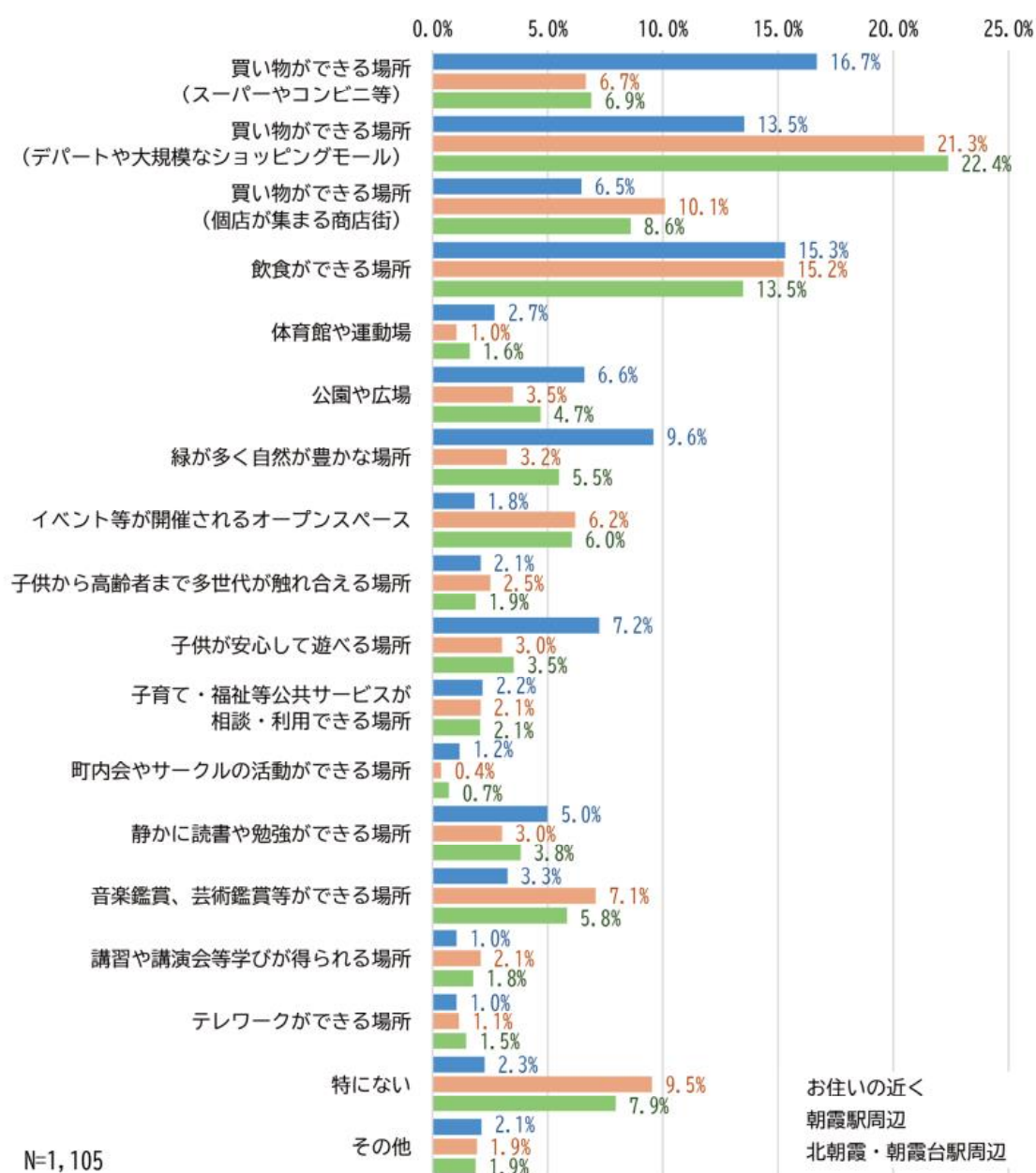


「黒目川」を大切に思う場所にする理由（複数回答）

②駅周辺やお住いの近くでの施設に関する要望

朝霞駅周辺、北朝霞・朝霞台駅周辺に求める場所については同様な傾向を示し、いずれも「買い物ができる場所」や「飲食ができる場所」との回答が多く占めており、商店や飲食店の充実に対するニーズが高いことが推察されます。「買物」や「飲食」を除くと、「音楽鑑賞、芸術鑑賞等ができる場所」や「オープンスペース」の確保が求められています。

お住いの近くに求める場所として、「買い物ができる場所」や「飲食ができる場所」との回答が多く占めているのは駅周辺と変わりませんが、スーパーやコンビニ等の日常的な買い物施設のニーズの方がデパートやショッピングモールより高くなっています。また、「緑が多く自然が豊かな場所」や「子供が安心して遊べる場所」のニーズが高くなっています。



駅周辺やお住いの近くに求める施設（複数回答）

(3) まちづくりサロン

市民の皆さまのご意見を本市のまちづくりの方向性や将来像に反映するとともに、まちづくりに対する市民の皆さまの関心を高めるために、多様な属性の市民を対象としたまちづくりサロン（ワークショップ）を実施しました。

①暮らしサロン

市民や市内で働く方を対象に、「暮らし～将来も朝霞に住み、通い、働く～」というテーマで、自分と異なる年齢や立場の人になったつもりで20年後のまちの姿及びそれを実現するための取組アイデアを考えていただきました。



暮らしサロン

■開催概要

日 時 ・ 会 場	令和6(2024)年6月22日(土) 10:00～12:00 市役所会議室
参 加 人 数	18人(4グループ)
テ ー マ	暮らし～将来も朝霞に住み、通い、働く～
対 象 者	市民や市内で働く方々

■主な成果：【20年後の「こうなっていたらいいな」を実現する取組アイデア】

「多様な暮らしと世代のミックス」：

- 多様な世代が暮らしやすく、交流（ミックス）ができる場所と機会を設ける
- 居場所づくりに資する社会実験に積極的に取り組む 等

「身の丈に応じた商業・経済」：

- 周辺の都市と競合しない商業の育成や、市のなかで創業してもらうための支援
- 民間活力と連携した新たな取組に挑戦する 等

「みどりを朝霞市の魅力として活用」：

- 市内のみどりを守るだけでなく、本市の魅力のひとつであり参画や交流ができる場所としてもっと活用する 等

「挑戦ができる環境」：

- 空き家や未利用地を暫定活用して、ビジネスややりたいことにチャレンジできる場所を用意する 等



暮らしサロン

②高校生サロン

市内の高校に通う高校生を対象に、「未来の私とまちの姿」というテーマで、15 年後（30 歳程度）の自分をイメージして将来理想のまちの姿を考えていただきました。

■開催概要

	朝霞高校編	朝霞西高校編
日 時 ・ 会 場	令和 6（2024）年 7 月 4 日（木） 13:30～15:30 朝霞高校	令和 6（2024）年 7 月 17 日（水） 13:30～15:30 市役所会議室
参 加 人 数	12 人（2 グループ）	30 人（6 グループ）
テ ー マ	未来の私とまちの姿	
対 象 者	市内の高校に通う高校生	

■主な成果：【理想のまちのキーワード】

「自分・家族」：

- 自分らしくいられる、家族を大切に
する 等

「ゆとり、時間」：

- 好きなことをする時間がある、ゆとり
のある生活 等

「やさしさ」：

- 人にやさしい、自分にもやさしい、自
然にやさしい 等

「豊かさ」「QoL」：

- 量より質的な豊かさ、生活の質を高める 等

「つながり・人間関係」：

- 好きなことや伝統を通して人や地域とつながる、ボランティア活動に参画する 等

「ロマンチック」：

- 出会いがある、花壇やきれいな公園や
素敵なカフェがある 等

「まちの姿」：

- 交通網が使いやすい、ビルが多いがみ
どりと共存、こどもが遊べる場所が豊
富、素敵なカフェがある、持続可能で
住みやすい 等



高校生サロン 朝霞高校編



高校生サロン 朝霞西高校編

③駅周辺サロン

駅周辺の関係者や駅周辺のまちづくりに興味のある方々を対象に、「将来の駅周辺がこうなったらいいな」というテーマで、駅周辺の課題と理想の将来、そしてその将来を実現するために求められる取組のアイデアを考えていただきました。

■開催概要

	北朝霞・朝霞台駅周辺	朝霞駅周辺
日 時 ・ 会 場	令和6(2024)年7月11日(木) 18:00~20:00 産業文化センター	令和6(2024)年7月18日(木) 18:00~20:00 市役所会議室
参 加 人 数	18人(3グループ)	12人(3グループ)
テ ー マ	将来の駅周辺がこうなったらいいな	
対 象 者	駅周辺の関係者や駅周辺のまちづくりに興味のある方々	

■主な成果：【駅周辺の魅力を向上するための取組アイデア】

北朝霞・朝霞台駅周辺

「乗換」:

- 移動手段も選択肢を増やすために交通広場を整備する 等

「滞在」:

- 滞在や寄り道したくなる駅前にするために駅周辺に滞在空間をつくる 等

「チャレンジ」:

- お店のバラエティーを増やすために市民・事業者がチャレンジできる環境を用意する 等

「ブランディング」:

- 地域ブランディングを促進するために「にんじん」をPRする 等



朝霞駅周辺

「ウォーカブル」:

- 安全に歩けるように歩行者と公共交通優先のウォーカブルな交通環境を整える 等

「複合利用」:

- 広場や様々な施設を複合的な目的・機能で使えるようにするために植栽やベンチ等の設えを整える 等

「チャレンジ」:

- まちなかで創業できるように空き家・空き店舗と利用希望者とのマッチングできる仕組みを整える 等



駅周辺サロン 朝霞駅周辺

2 朝霞市を取り巻く社会動向

本市における市民生活や自治体運営に大きな影響を及ぼしうる国や社会経済全体の動向について、本計画策定の背景として特に踏まえるべきことを、以下の8つに整理しました。

- ①人口減少と高齢化の進行
- ②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展
- ③安全・安心な暮らしに対する意識の高まり
- ④新たなモビリティ等の移動手段の多様化
- ⑤人生100年時代の到来とウェルビーイングの重視
- ⑥多様性を認め合う社会の形成と人権の尊重
- ⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展
- ⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

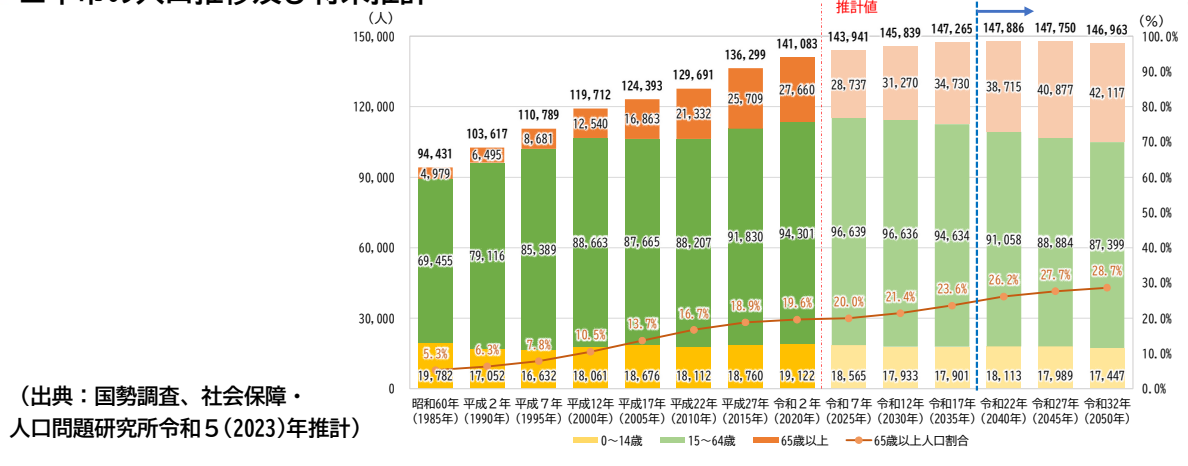
①人口減少と高齢化の進行

令和6（2024）年における日本の総人口は、1億2,488万5,000人であり、平成28（2016）年と比較して300万人近い減少となりました。国によれば、日本の総人口は今後も減少傾向で推移し、令和52（2070）年には8,700万人程度と推計されています。

また、令和6（2024）年の高齢化率は28.8%であり、平成28（2016）年と比較して2.2ポイント上昇しました。国によれば、高齢化率は今後も上昇傾向で推移し、令和52（2070）年には38.7%程度と推計されています。このような人口減少と高齢化の進行は、経済の停滞だけでなく、地方自治体等の財政状況の悪化を招き、また、コミュニティの担い手の減少にもつながる等、日本の社会経済のあらゆる側面に多大な影響を及ぼすものと懸念されています。

本市では人口の増加傾向が継続しており、今後もしばらく増加する見込みですが、令和22（2040）年には人口減少に転じると見込まれます。また、高齢化率も継続的に上昇しており、令和32（2050）年には28.7%になる見込みです。そのように人口減少や高齢化の進行が見込まれる中で、都市としての活力を保ちながら、誰もが暮らしやすく選ばれるまちづくりを進めていくことが求められます。

■本市の人口推移及び将来推計



②新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機とした社会変革の進展

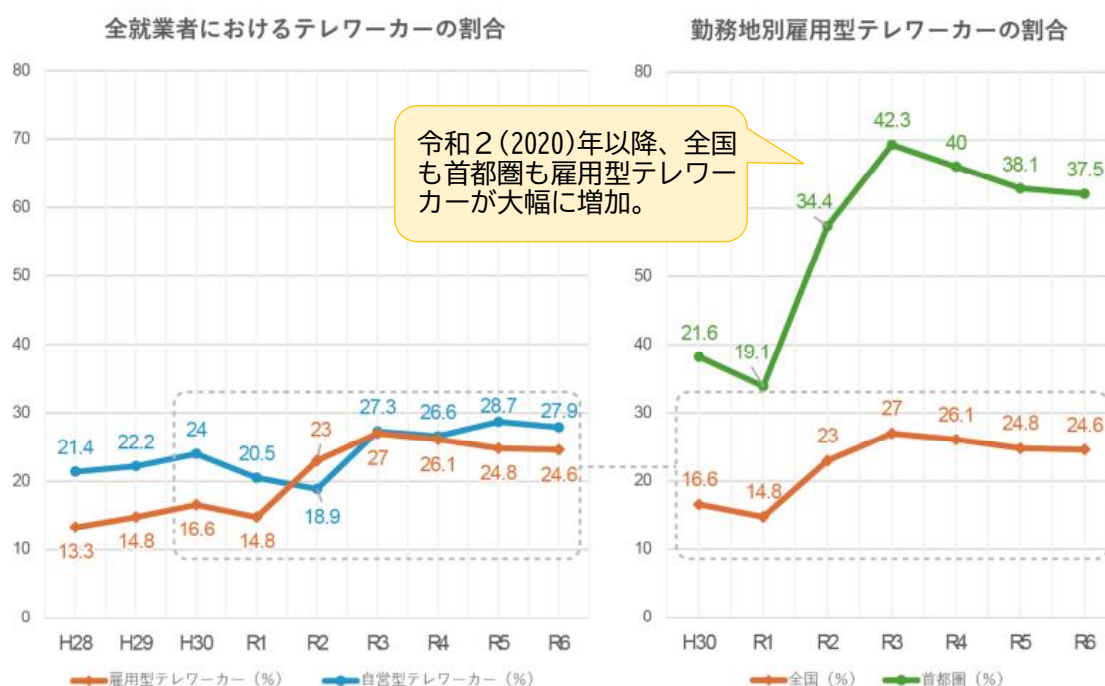
令和2（2020）年から感染拡大が見られた新型コロナウイルス感染症は、社会経済のみならず、人々の働き方や日常的な行動に至るまで、大きな影響を及ぼし、医療提供体制のひっ迫をはじめ、消費の縮小、人々の孤独・孤立の深刻化等が問題となりました。

一方、感染症の感染拡大を契機として、テレワーク、オンライン授業、ネットショッピング、キャッシュレス決済等、様々な場面でのオンライン化が進んだことにより、人々の暮らし方や働き方の変革が急速に進展しました。

このような変革を背景として、ヒトやモノの流れが大きく変化しました。その結果、人々の居住地選定や企業の立地選定の自由度が増し、都市部から地方への人の移住や企業の移転も見られています。

本市は、都心近郊の都市でありながら武蔵野台地や河川等の豊かな自然が残る、多様な住環境の選択肢があることがまちの魅力です。ライフスタイルが多様化する中で、選択できる住環境の多様性をさらに伸ばしていくことが求められます。

■テレワーカーの推移



自営型テレワーカーについて、R3年度に定義を変更したため、それ以前との直接比較は困難。

従来の定義では、「普段仕事を行う事業所・仕事場とは違う場所」で実施することが要件。このため会社という普段働くことが要件。このため、会社という普段働くことが想定される特定の場所がない自営型では働く場所が自宅にシフトすると、従来の要件から外れることとなる。これが、R2年度に自営型テレワーカー割合が減少した理由と考えられているため、R3年度に定義を変更し、「普段仕事を行う場所が自宅」であるテレワークも対象とした。

なお、雇用型についても、自宅テレワーク中心の働き方の増加を想定し、併せて定義を変更した。

〈R3年度以降のテレワークの定義〉

雇用型 ICT等を活用して、普段出勤して仕事を行う勤務先とは違う場所で仕事をする、又は勤務先に出勤せず自宅その他の場所で仕事すること

自営型 ICT等を活用して、自宅で仕事をする、又は、普段自宅から通って仕事を行う仕事場とは違う場所で仕事すること

（出典：令和6（2024）年度テレワーク人口実態調査）

③安全・安心な暮らしに対する意識の高まり

平成 23（2011）年東日本大震災、令和 6（2024）年能登半島地震による被害や、大規模地震である南海トラフ地震の発生への危惧、さらには集中豪雨の頻発等を受け、安全・安心な暮らしに対する人々の意識も高まっています。

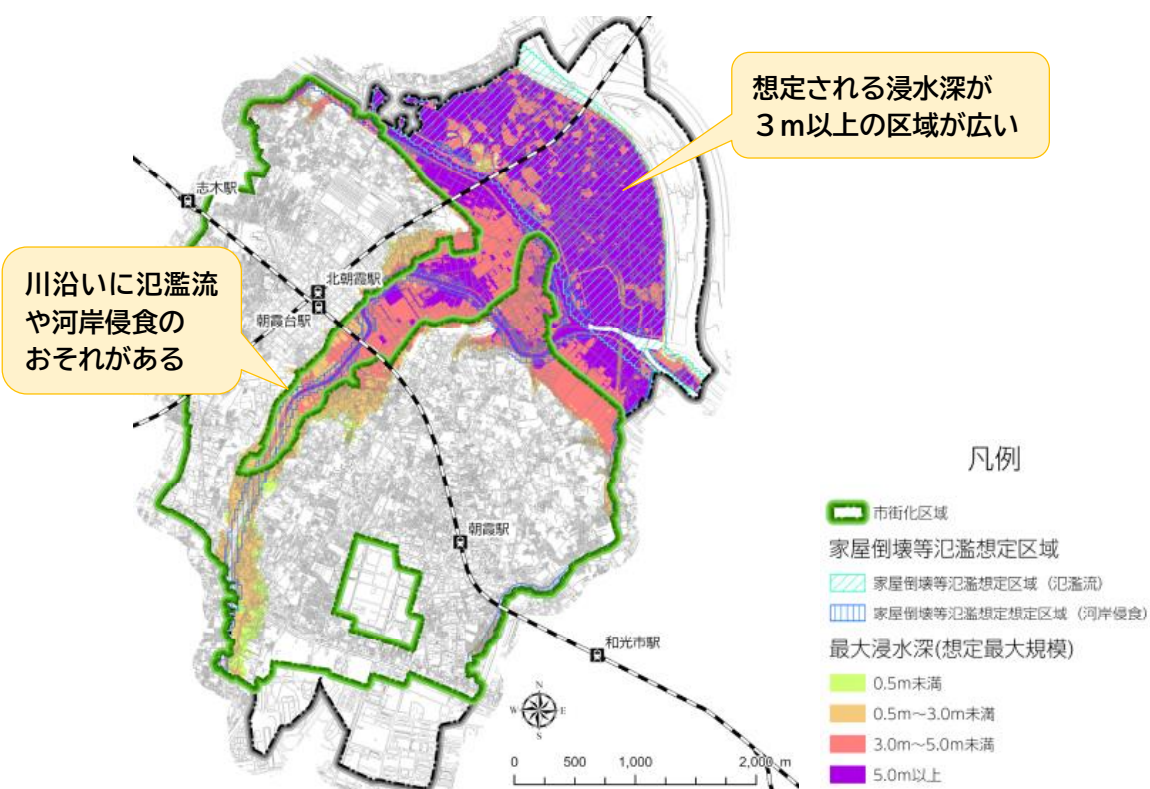
このような背景のもと、大都市への人口の集中による大規模開発等が進む中、防災・減災のための体制・インフラ整備や、自助・互助・共助による取組の進展、多様な主体の連携による防災活動の推進等、災害に強いまちづくりが改めて求められています。

防犯に関しては、交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、刑法犯認知件数は増加傾向にあります。また、近年ではインターネットを利用した犯罪や特殊詐欺等が増加しており、危険運転致死傷の事件数も高い水準となっています。

こうした事件・事故を受け、安全・安心なまちづくりへの関心が高まっています。警察等関係機関と地域との連携の下、人々の防犯意識等をさらに高めながら、こどもから高齢者まで誰もが安全・安心に暮らせる犯罪を起こさせない地域環境をつくることが求められています。

本市においても洪水による浸水想定区域が広範囲にあることや、朝志ヶ丘地区や三原地区等、住宅が密集しているエリアも多数見られます。災害が発生しても、被害を最小限に留めるとともに素早く確実に復旧でき、日常生活のなかで防犯とともに備えができるまちづくりが求められます。

■本市における浸水想定区域及び家屋倒壊等氾濫想定区域（想定最大規模降雨）



（出典：荒川水系 新河岸川流域洪水浸水想定区域図・
荒川洪水浸水想定区域図）

④新たなモビリティ等の移動手段の多様化

人口減少等による公共交通の利用者数の減少や、公共交通の労働環境の変化等を受けた運転手不足により公共交通の維持が困難になることが懸念されます。

一方で、自動運転等の技術の進展や、シェアサイクル・電動キックボード等の新たなモビリティの登場等、移動を支える手段の多様化が進んでおり、それらを活用したまちづくりが求められています。

本市では、環境と人にやさしい交通ネットワークの形成に向けて、令和元（2019）年よりシェアサイクルが導入され、市内にはサイクルポートが高密度で配置されています。今後公共交通の維持が難しくなる状況が想定される中で、新たなモビリティの積極的な導入により、目的に応じて移動手段を選択できる環境の確保が求められています。

⑤人生 100 年時代の到来とウェルビーイングの重視

日本は世界的に見ても長寿国であり、「人生 100 年時代」の実現に近い国の一つとなっています。100 年という長い人生をより充実したものにするため、こどもから高齢者まで全ての国民に活躍の場がある社会をつくることや、健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の延伸が求められています。

一方、世界保健機関（WHO）が提唱したウェルビーイング（Well-being、身体的・精神的・社会的に良い状態にあること）を重視する考え方が日本でも広まりつつあり、長い人生を健やかに過ごすための健康づくりや、就労、地域活動等、社会への参画促進に向けた取組の重要性が増しています。

本市の朝霞駅や北朝霞・朝霞台駅周辺では、まちへの愛着や生活の質を高めることを目的に、駅前広場や公園、道路等の公共空間を活用した、住んでいる人も訪れる人も誰もが「居心地が良く、歩きたくなるまち」、そして「人でにぎわう魅力的なまち」づくりの取組が進められています。このような取組を駅周辺に留まらず市内全域に展開していくことが求められます。

■シェアサイクルポートの分布



（令和3（2021）年10月時点市保有データより作成）

■シンボルロード



左：平常時
下：ストリートテラス時



⑥多様性を認め合う社会の形成と人権の尊重

社会的な孤独・孤立を一因とする自殺や、子ども・高齢者に対する虐待等の問題が深刻化しています。また、SNSを通じた新たな人権問題の顕在化、外国人等に対する根強い差別、政治参画・経済参画の分野における著しい男女間の格差等、日本にはいまだに様々な差別・偏見といった解決すべき課題が存在しています。

このような社会的な孤立や、差別・偏見は、それ自体が社会問題であるだけでなく、多様な人々の活躍を妨げ、社会の活性化を阻害する要因にもなっており、解消に向けた継続的な取組が求められています。

このような社会的背景を踏まえ、日本でも多様性（ダイバーシティ）や公正さ（エクイティ）、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の尊重という考え方が広がりつつあります。誰もがその人らしく活躍できる社会の実現に向け、国や地方自治体だけでなく、事業者、地域社会、国民一人一人に至るまで、様々な場面における取組が求められています。

本市では多様性を尊重し、誰もが自分らしく生きられる社会に向けた取組が進められています。まちづくりはその土台を担うものであり、誰もが安全に安心して生活ができ、かつ自分らしく、いきいきと活動できる場や空間の創出が求められます。

⑦持続可能な社会の構築に向けた取組の進展

地球規模での大規模な気候変動は、自然災害の激甚化、人々の生活環境の悪化、生物多様性の喪失等を世界各地で引き起こしており、持続可能な社会の構築に向けた対策が世界的に推進されています。

他方、国際連合（UN）は、平成 27（2015）年に SDGs（持続可能な開発目標）を採択し、令和 12（2030）年までに、持続可能でより良い世界を目指す決意を示しています。この SDGs の実現に向け、エネルギー、産業、自然環境等の幅広い分野にわたって、国・地方自治体、事業者、国民一人一人といった様々な主体による、持続可能な社会の構築に向けた取組が期待されています。このような国際的な潮流の下、日本でも、令和 2（2020）年のカーボンニュートラル宣言や、クリーンエネルギーへの転換等を目指した GX（グリーン・トランスフォーメーション）の推進等を通じ、持続可能な社会の構築に向けた取組を進めています。

本市は、都心近郊でありながら農地や斜面林、黒目川等の豊かなみどりが残されており、朝霞らしい心安らぐ風景は本市の魅力となっています。この魅力を次の世代に守り育てていくことが求められます。

⑧DX（デジタル・トランスフォーメーション）の進展

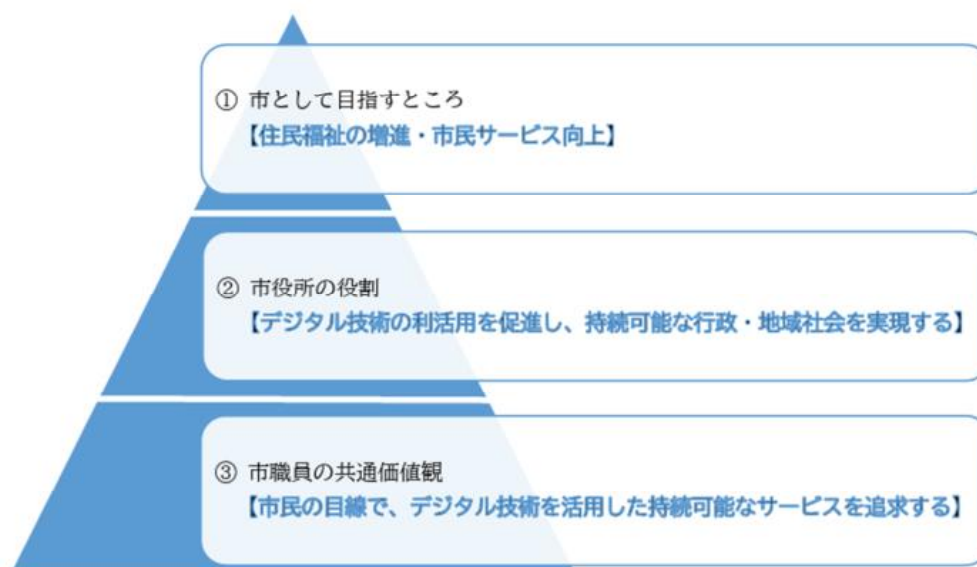
インターネットをはじめとした ICT の著しい発展により、社会経済システム全体から人々の日常生活全般に至るまで、大きな変革が生じています。

DX（デジタル・トランスフォーメーション）とは、「ICT の浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること」とされており、世界各国において国を挙げた取組が推進されています。

このような潮流の中、国はデジタル庁を設置し、誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を目指しています。加えて、国は ICT を活用して地方を活性化することを目的として、令和 3（2021）年に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタル基盤の整備やデジタル人材の育成・確保等を通じ、デジタルの力による社会課題の解決と地方の魅力の向上を図るものとしています。

本市では、多様化・複雑化する市民ニーズに対応しつつ、将来にわたって継続して行政サービスを提供することが求められ、行政情報のデジタル化による業務の効率化や自動化、省力化を進めているところです。まちづくりにおいても、リスクや将来イメージの共有にはデジタル技術を活用した「見える化」は有効な手段であり、積極的な活用が求められます。

■本市におけるデジタル化に向けた取組「朝霞市デジタル化による目指す姿」

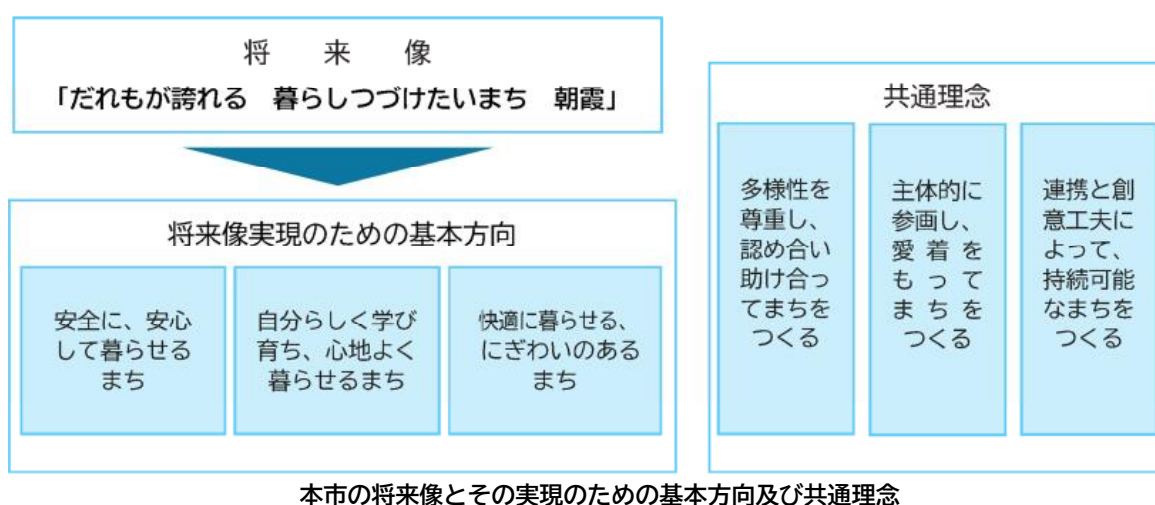


出典：朝霞市行政情報デジタル化推進方針(令和 4 (2022)年 10 月)

第2章 朝霞市の将来像と取り組むまちづくりのテーマ

1 朝霞市の将来像

ここでは、本計画の策定時から概ね20年後に向けたまちづくりを進めるうえでの統一的な目標概念となる「将来像」や、その実現のための「基本方向」及び「共通理念」をそれぞれ設定します。同時期に第6次朝霞市総合計画が策定されることから、相互の連携をより深めることが重要と考え、両計画で同じ将来像と基本方向、共通理念を掲げます。また、これらを実現するために本計画で取り組むことについても、第6次朝霞市総合計画の基本構想の内容に即して掲げます。



(1) 将来像

だれもが誇れる 暮らしたつづきたいまち 朝霞

本市は、武蔵野台地に育まれたみどりに恵まれ、交通利便性の高い東京近郊の住宅都市として発展し、市制施行時に約5万5,000人だった人口は、これまで増加を続け、令和7（2025）年には約14万6,000人を有する都市に成長してきました。

これからも、本市の強みである生活利便性や安全性、恵まれた自然環境、朝霞市民まつり「彩夏祭」に代表される文化等を、未来に継承していきます。

さらには、近年希薄化しつつある人と人とのつながりの再生や、協働によるまちづくりの活性化を通じ、第5次朝霞市総合計画の将来像として掲げた『暮らしたつづきたいまち』をさらに洗練することで、誰にとっても魅力的で誇りを持てる、住みやすいまちを目指していきます。

(2) 基本方向

将来像を実現するためには、市政運営の大きな方向性を示し、皆が方向性を同じくして取り組んでいくことが大切です。そこで、将来像の実現のための基本方向として、次の3つを掲げます。

安全に、安心して暮らせるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「災害や犯罪への対策が充実しており、安全に暮らしていける」と実感できるまちを目指します。

また、「子育て支援等の福祉サービスや、市民の健康づくりへの支援等が充実しており、安心して暮らしていける」と思えるまちを目指します。

自分らしく学び育ち、心地よく暮らせるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「充実した教育を受けながら成長し、活躍する場がある」と実感できるまちを目指します。

また、「恵まれた自然環境の中で、人と人とのつながりがあり、住みやすい環境がある」と思えるまちを目指します。

快適に暮らせる、にぎわいのあるまち

こどもや高齢者、障害者等、誰もが「道路や公園等のインフラが整備され、便利さと快適さがある」と実感できるまちを目指します。

また、「地域の特性を生かした産業の活力があり、にぎわいがある」と思えるまちを目指します。

(3) 共通理念

将来像の確実な実現に向け、すべての政策を推進するための共通理念として、次の3点を掲げます。この共通理念は、行政のみならず、市民、市民活動団体、さらには事業者や学術研究機関等の多様な主体が共通して理解し、常に心がけてほしい姿勢となります。

多様性を尊重し、認め合い助け合ってまちをつくる

本市には様々な人々が暮らしており、個性や価値観、社会的な状況等多様です。また、人々と同様に、本市の各地域にも、それぞれの個性があります。

これからのまちづくりでは、社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）や多様性（ダイバーシティ）を尊重し、人の個性や地域特性の多様性を尊重し、認め合い助け合いながら、未来の朝霞をつくっていきます。

主体的に参画し、愛着をもってまちをつくる

地域における課題解決に向けては、行政だけではなく、市民等それぞれが自分ごとと捉え、様々な視点から主体的に活動することが大切になります。

これからのまちづくりでは、市民にとって市政への参画が身近であることを目指すとともに、参画と協働を通じて愛着を育みながら、未来の朝霞をつくっていきます。

連携と創意工夫によって、持続可能なまちをつくる

複雑化・多様化した課題の解決には、広域的な視点や、市民等、行政以外の視点を取り入れることが欠かせません。

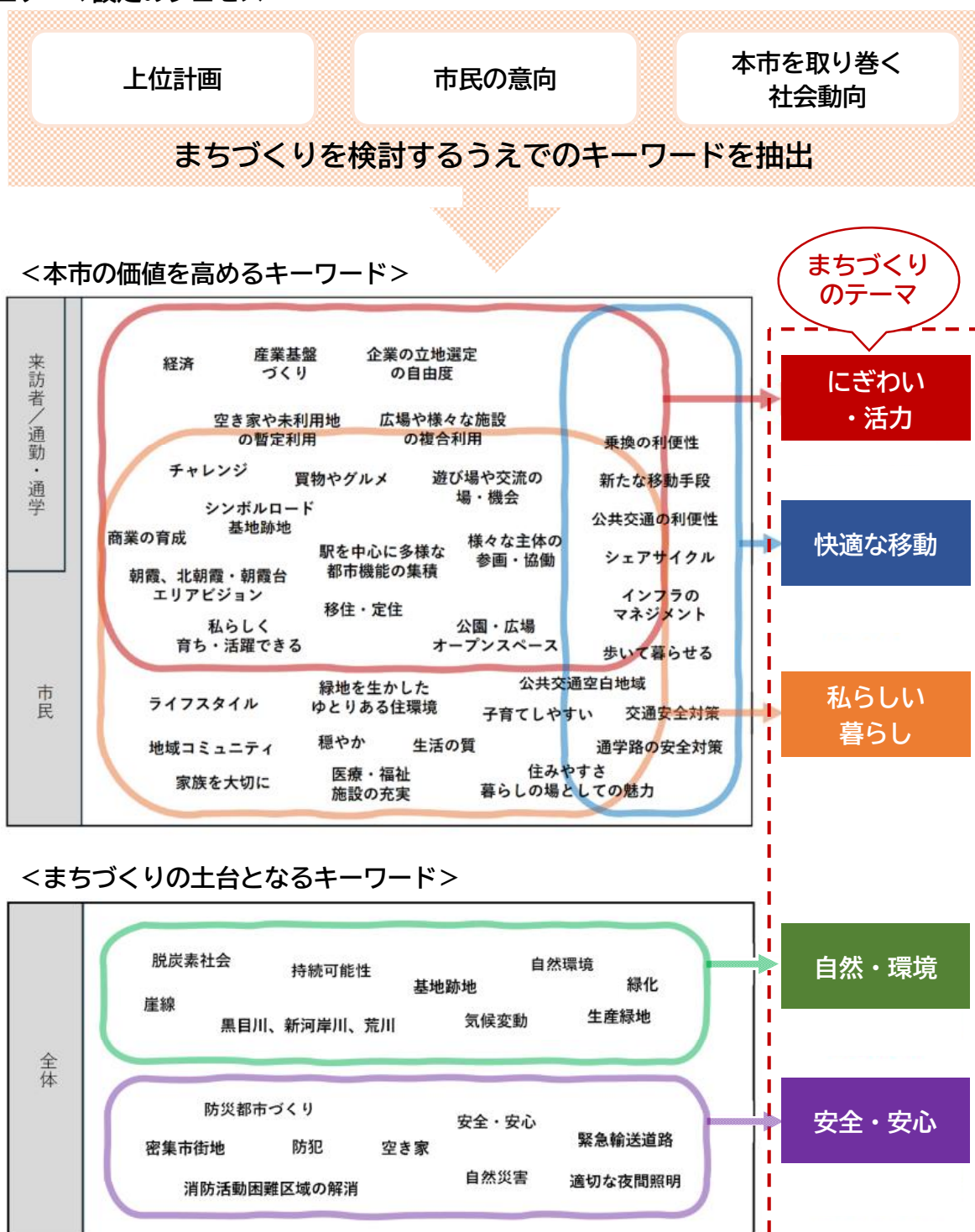
これからのまちづくりでは、他の自治体や市民等のまちづくり活動の主体と連携し、デジタル技術の活用等、絶え間なく創意工夫を重ね、市民生活を安定的に支えられる行財政基盤を構築しながら、未来の朝霞をつくっていきます。

2 将来像の実現に向けて取り組むまちづくりのテーマ

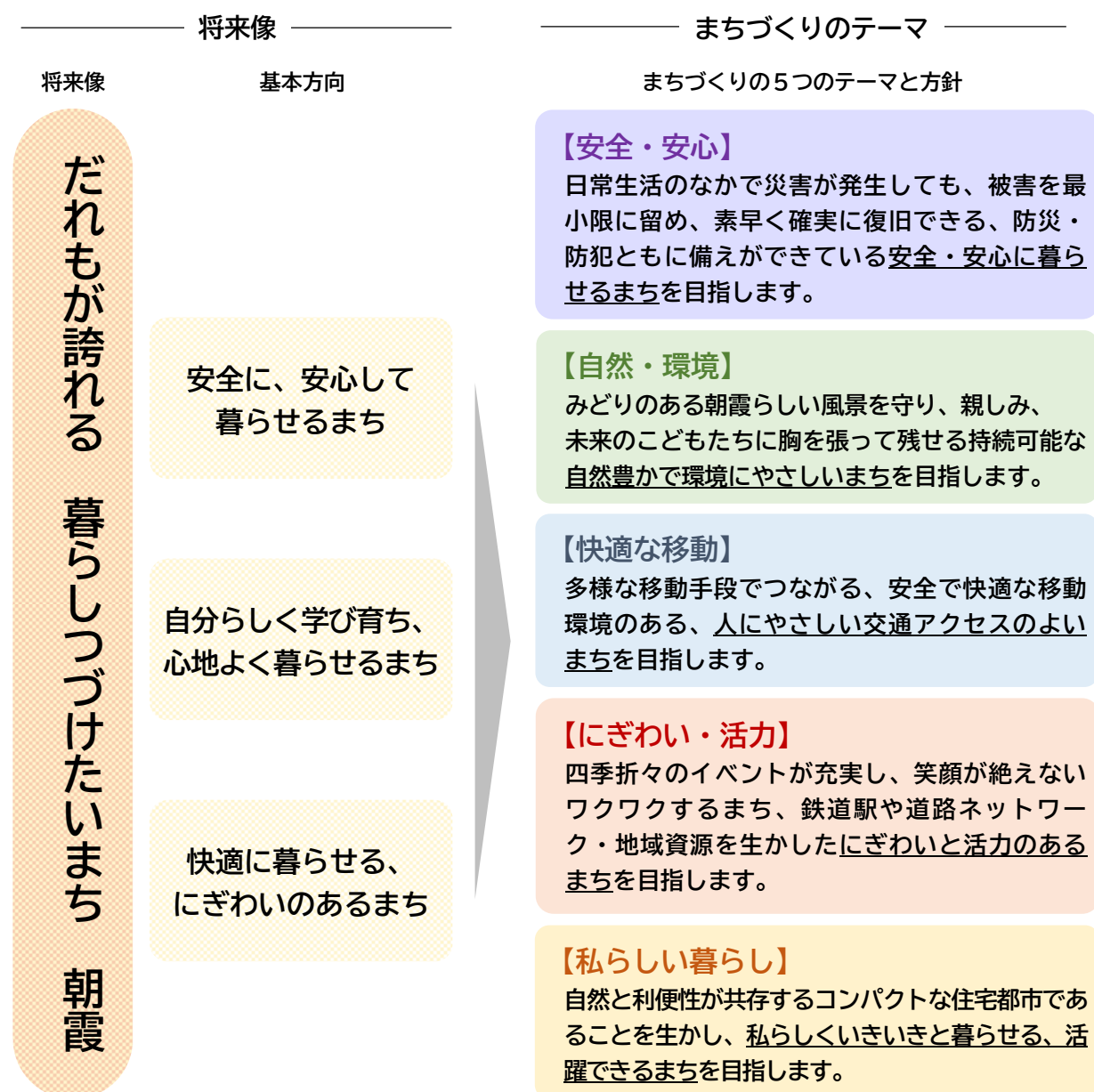
上位計画や、将来のまちづくりに対する市民の意向、本市を取り巻く社会動向の整理から、今後のまちづくりを検討するうえでのキーワードを抽出します。そのキーワードを本計画の対象者「市民、来訪者／通勤・通学、全体」に応じて配置すると、大きく5つのグループに括ることができ、この5つのまとまりを将来像の実現に向けて取り組むべきまちづくりのテーマとして設定します。

上記の5つのテーマは、これからのまちづくりの土台となるものと、本市の価値を高めるものに分けられます。

■テーマ設定のプロセス

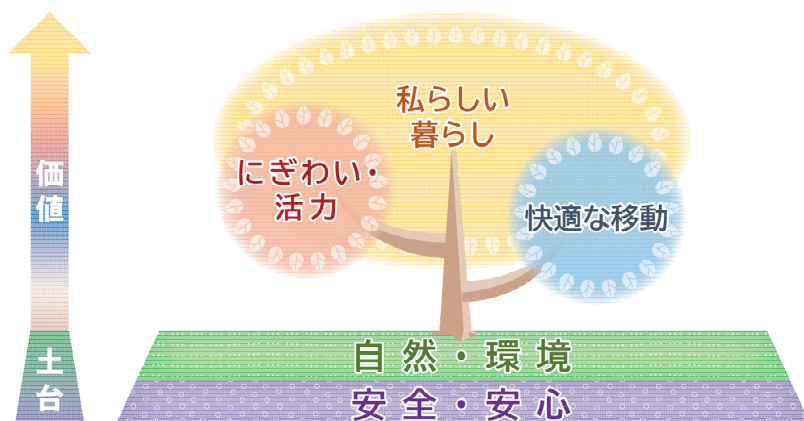


■将来像とまちづくりのテーマとの関係性



■5つのテーマの関係性

まちづくりの土台となるテーマ「安全・安心」と「自然・環境」の上に、本市の価値を高める3つのテーマ「私らしい暮らし」、「にぎわい・活力」、「快適な移動」を育てていくことを表現しています。



3 まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図

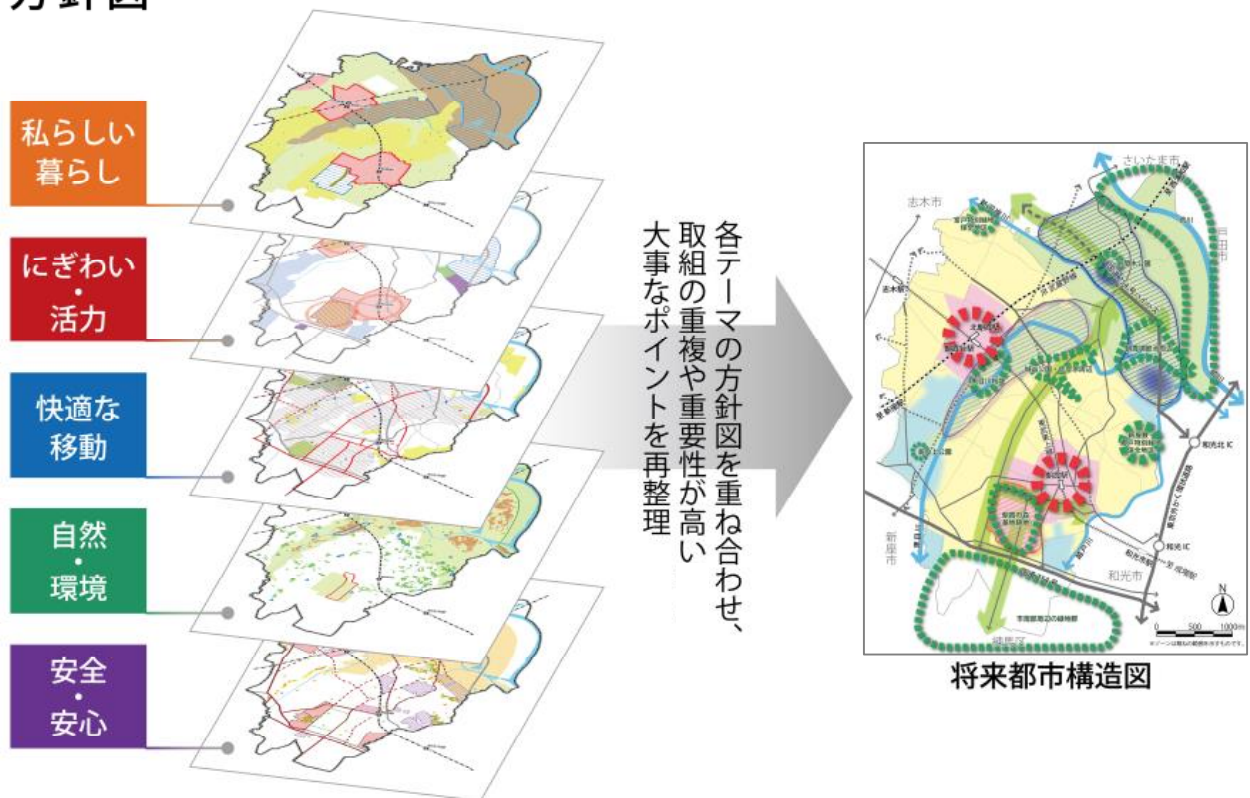
まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図は、将来像を実現するため、本市の特徴・課題を踏まえた将来あるべき「都市の骨格イメージ」を明らかにするものです。

将来都市構造図の要素として、行政サービスや医療・福祉、商業、文化等の都市機能の集積や自然環境の保全の核となる「拠点」、居住環境や地形等の状況に応じた土地利用方針を表す「ゾーン」、市内及び隣接都市との交通及び自然環境の骨格を形成する「都市軸」を設定し、それぞれの方針を示します。

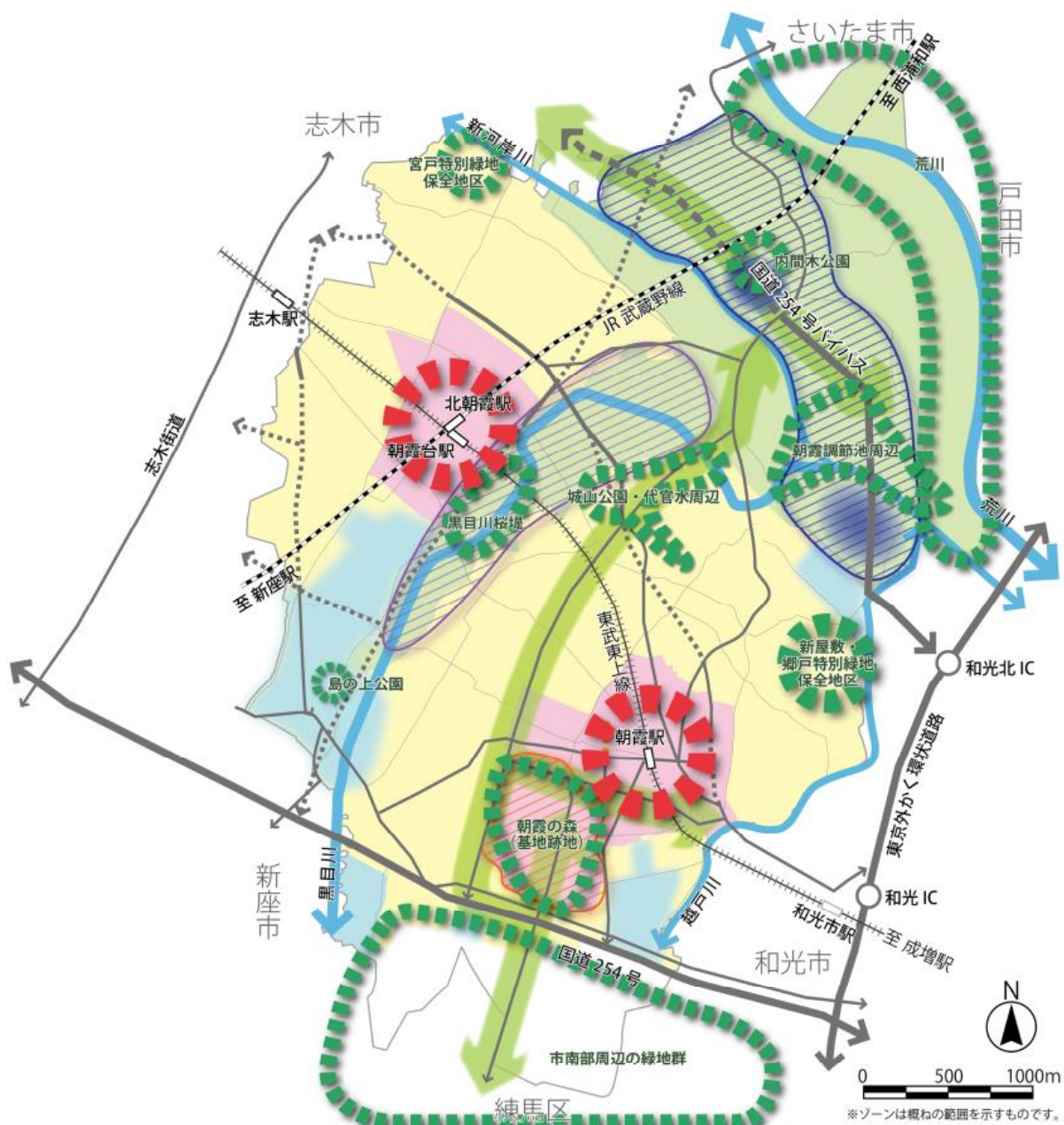
上記の将来都市構造図は、後述する5つのまちづくりのテーマに対する方針図を重ね合わせ、取組の重複や重要性の高い大事なポイントを抽出し再整理したものです。

■まちづくりのテーマに対応する将来都市構造図と各テーマの方針図との関係性

方針図



■将来都市構造図





[拠点]		[ゾーン]			
 都市拠点	<div>移</div> <div>に</div> <div>暮</div>	 歩きたくなるウォークアブル推進モデルゾーン	<div>移</div> <div>に</div> <div>暮</div>	 新たな拠点形成ゾーン (基地跡地)	<div>安</div> <div>環</div> <div>に</div> <div>暮</div>
 みどりの拠点	<div>環</div>	 住みよいくらしゾーン	<div>安</div> <div>移</div> <div>暮</div>	 産学官連携ゾーン	<div>暮</div>
		 産業と共生ゾーン	<div>に</div> <div>暮</div>	 自然と利活用調和ゾーン (国道254/バイパス周辺)	<div>に</div> <div>暮</div>
		 自然と共生ゾーン	<div>安</div> <div>環</div> <div>暮</div>	 利活用の核となるエリア (内陣木公園周辺、あすま地区)	
[都市軸] 広域交通軸 鉄道		道路(国道)	地域交通軸 道路	みどりの軸	
	<div>移</div>	<div>移</div>	<div>移</div>		<div>環</div>
 JR	 整備済	 整備済	 河川軸		
 私鉄	 未整備	 未整備	 道路軸		

[5つのテーマとの対応]


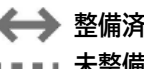
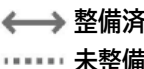


安 安全・安心
 環 自然・環境
 移 快適な移動
に にぎわい・活力
暮 私らしい暮らし

■将来都市構造図を構成する要素の方針

○拠点

都市拠点 移 に 暮 	朝霞駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> 朝霞駅周辺の道路等の都市基盤整備に加え、商店街の活性化に向け、魅力ある店舗の誘導等による商業業務機能の充実を図ります。また、駅周辺の利便性を生かした医療・福祉・子育て等の各種生活サービス機能や行政サービス等の都市機能の集積を図り、魅力と活力のある中心市街地としてのにぎわいづくりを推進します。 駅や商店街、周辺施設が連携し、公共空間や地域資源を活用した安全で楽しく歩きたくなるウォーカブルな空間形成を官民連携で推進します。
	北朝霞・朝霞台駅周辺	<ul style="list-style-type: none"> 朝霞台駅の建替も見据え、駅周辺の一体的な都市機能の配置・集積を図るとともに、北朝霞地区地区計画による商業業務施設の誘導を維持し、利便性の高くにぎわいや魅力ある商業空間の形成を図ります。 駅や商店街、周辺施設及び大学や自然とも連携し、安全で楽しく回遊性のある、歩きたくなるウォーカブルな空間形成を官民連携で推進します。
みどりの拠点 環 	朝霞の森（基地跡地）	<ul style="list-style-type: none"> 朝霞の森（基地跡地）等の拠点は、本市における重要なみどりのストック（資源）であり、その特色を生かし次世代に継承します。 荒川や市南部周辺の緑地群は、広域的なみどりのネットワークを形成する重要なみどりとして、管理者と協調の下、みどりの多面的機能の保全を目指します。
	朝霞調節池周辺	
	内間木公園	
	城山公園・代官水周辺	
	島の上公園	
	新屋敷・郷戸	
	特別緑地保全地区	
	宮戸特別緑地保全地区	
	黒目川桜堤	
	荒川	
	市南部周辺の緑地群	

○都市軸

広域交通軸 移 鉄道  道路（国道）  <div> 整備済 未整備 </div>	鉄道 <ul style="list-style-type: none"> JR 武蔵野線 東武東上線 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣都市との広域交通ネットワークを形成し、都市間の快適な移動を促進します。特に整備が進められている国道254号バイパスの早期整備に向けて埼玉県等の関係機関等との連携を図ります。
	道路（国道） <ul style="list-style-type: none"> 国道254号 国道254号バイパス 	
地域交通軸 移 道路  <div> 整備済 未整備 </div>	道路 <ul style="list-style-type: none"> 県道 主要生活道路 都市計画道路 	<ul style="list-style-type: none"> 広域交通軸を補完し、市内の各拠点等を結ぶ地域交通ネットワークを充実するため、未整備区間の整備を推進するとともに、既存道路の改良を行い、交通流の円滑化を図ります。 長期未整備の都市計画道路については、必要性を再検証し計画の見直しを行います。
みどりの軸 環  河川軸  道路軸	<ul style="list-style-type: none"> 荒川 ・新河岸川 黒目川 ・越戸川 国道254号バイパス ケヤキ並木 イチヨウ並木 	<ul style="list-style-type: none"> 荒川、黒目川・新河岸川・越戸川の豊かな自然環境を保全するとともに、河川沿いの散策路や休息空間等を充実させ、自然学習やレクリエーションの場として活用します。 街路樹の適正な維持管理を行うことで、街路樹の健全な成長を促し、安全で快適な道路空間を確保します。また、事業中の都市計画道路については、人と環境にやさしい道路づくりを目指すとともに、緑化を進めます。

[5つのテーマとの対応]

安 安全・安心
 環 自然・環境
 移 快適な移動
に にぎわい・活力
暮 私らしい暮らし

○ゾーン

歩きたくなる ウォーカブル 推進モデル ゾーン 移 に 暮 	・駅周辺でにぎわい・魅力ある空間の創出により歩きたくなる空間を目指すモデルゾーン	・駅周辺に都市機能の集積を図るとともに、通勤や買物等の利便性に魅力を感じる多様な世代の居住の誘導を図ります。 ・シェアサイクル等の多様な移動手段を確保するとともに、官民連携のにぎわいづくりを通じ歩きたくなるウォーカブルな空間を形成します。
住みよい 暮らしゾーン 安 環 移 暮 	・自然とのバランスが取れた住みよい環境整備を進めるゾーン（住居系用途地域）	・住宅密集地等における防災機能強化を行い災害に強い生活環境を形成します。 ・バス路線やシェアサイクル等による交通利便性を確保しつつ、自然とのバランスのとれた総合的に暮らしやすい住環境を維持します。
産業と共生 ゾーン に 暮 	・産業の立地する特性を生かした、住まいとの共存を進めるゾーン（工業系用途地域）	・産業が持続できる環境を確保することにより、持続的な活力の創出を図ります。 ・市内に立地する企業等との連携・協働し、居住環境にも配慮した生産環境の確保を図るとともに、地区計画等を活用し住環境の維持・向上を図ります。
自然と共生 ゾーン 安 環 移 暮 	・みどりを保全しつつ、既存集落との共生を進めるゾーン（市街化調整区域）	・公共交通空白地区の解消や防災性の向上等生活環境の改善を図りつつ、水辺空間やみどりの保全を図り、周辺環境に調和するレクリエーション活動の場として活用します。 ・市街化調整区域での無秩序な開発の抑制を図ります。
新たな拠点 形成ゾーン 安 環 に 暮 	・基地跡地の立地する特性を生かした、官民連携でまちづくりを進めるゾーン	・官民連携による公共空間の活用を軸としたにぎわいの創出に取り組みます。 ・周辺の公共施設と連携し自然環境を生かした施設整備や土地利用等の整備を図るとともに、防災時の核となる防災拠点を形成します。
産学官連携 ゾーン 環 暮 	・大学や病院が立地する特性を生かした、産学官連携でまちづくりを進めるゾーン	・現存する公共公益施設の機能を維持するとともに、景観資源である黒目川の魅力向上を図ります。 ・病院や大学、福祉施設との連携により回遊性の向上を図ります。
自然と利便性 調和ゾーン 安 環 移 に 暮 	・国道 254 号バイパスの整備を契機に、自然環境や住環境と調和したまちづくりを進めるゾーン	・都市計画等の制度を活用し、防災・減災、農地・自然環境保全、地域活性化との調和のとれた適切な土地利用を推進します。 ・国道 254 号バイパス整備による立地特性を生かした産業（商業・工業を含む）機能を確保することやリサイクル拠点の検討等、沿道土地利用の促進を図ります。
利活用の核となるエリア  <ul style="list-style-type: none"> ・内間木公園周辺 ・あずま地区周辺 		

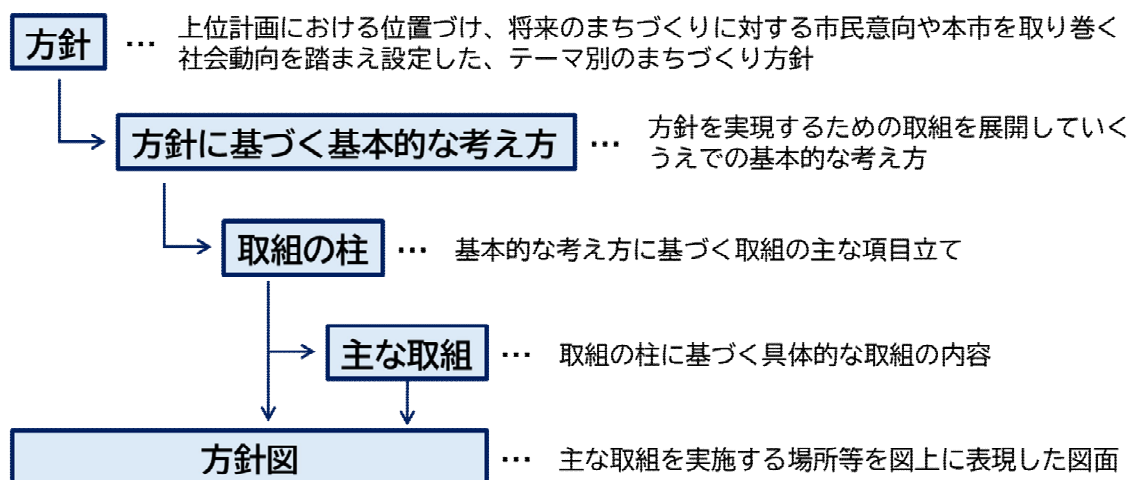
第3章 テーマ別まちづくり方針

第2章で設定した将来像の実現に向けて取り組む5つのテーマについて、テーマ別まちづくり方針と、その実現に向けた取組を以下の構成で整理します。

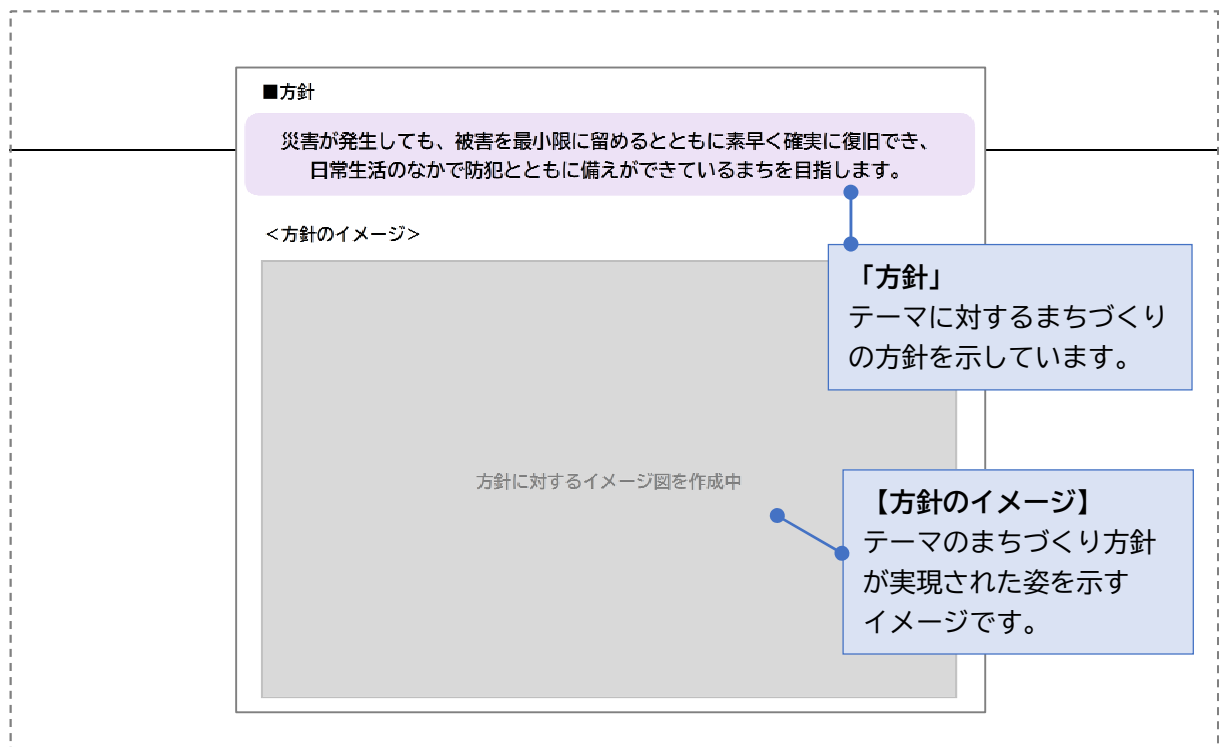
テーマ別まちづくり方針では、市全域を対象としたまちづくり方針を整理しており、地域の状況に応じた地域別の取組については「第4章 地域別まちづくり構想」で整理しています。

■テーマ別まちづくり方針の構成

本章では、5つのテーマについて、以下の内容を示します。



(参考) テーマ別まちづくり方針の見方



(参考) テーマ別まちづくり方針の見方(続き)

「方針に基づく基本的な考え方」

方針を実現するための取組を展開していくうえでの基本的な考え方を示しています。

<方針に基づく基本的な考え方>

①災害に備える

- 各地で地震や風水害が頻発するなか、災害発生前の備えとして、災害のおそれがある地域の解消や、危険な区域から安全な区域への居住誘導を進めます。
- また、老朽化したインフラを災害にも耐えられるように更新するほか、災害時の被害を拡大させかねない環境にある住宅地の改善に取り組みます。

<取組の柱>

- ① 災害リスクの低減・回避
- ② インフラの強化
- ③ 災害に強い生活環境への改善

「取組の柱」

基本的な考え方に基づく取組の主な項目立てを示しています。

(参考) テーマ「安全・安心」に関連する第6次朝霞市総合計画の施策

- 【災害対策の推進】・総合的な防災体制の強化 ・防災施設などの整備
- ・災害(地震・火災・水害)に強いまちづくり ・避難場所・避難道路の確保
- 【地域防災力の強化】・防災意識の高揚 ・自主防災活動の支援 ・地域防災の連携
- 【消防体制の充実】・消防との連携 ・消防団の充実
- 【防犯のまちづくりの推進】・防犯活動の充実 ・防犯環境の整備
- 【公共下水道の整備】・雨水浸水対策の推進

参考として、テーマに関連する第6次朝霞市総合計画の施策を示しています。

「取組の柱」(再掲)

「方針に基づく基本的な考え方」(再掲)

②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える

取組の柱④ 発災時の核となる防災拠点の形成

【考え方】

- 災害が発生した際に避難者を安全に受け入れられる避難場所を確保するとともに、基地跡地や内閣木公園などの広大なオープンスペースを持つ公園の整備にあたっては防災拠点として機能強化を検討します。

【主な取組】

- 震災や水害に対応した避難場所の機能確保
- 基地跡地や内閣木公園などの防災拠点化の検討 等

取組をイメージさせる写真やイラストを追加

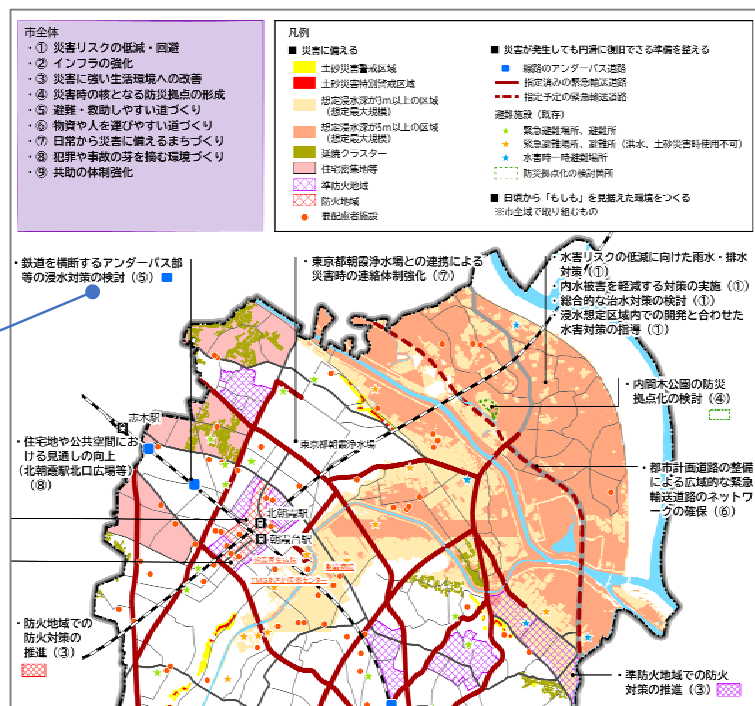
「主な取組」

取組の柱に基づく取組の考え方と主な取組を示しています。

「方針図」

主な取組を実施する場所等を図上に表現しています。

主な取組の内容とその場所を示しています。内容の後ろの括弧書きの番号(⑤)は、この取組が該当する「取組の柱」の番号を示しています。その後ろには、該当する凡例も示しています。



1 テーマ「安全・安心」

(1) まちづくり方針

テーマ「安全・安心」に対するまちづくり方針を次のとおり設定します。

■方針

日常生活のなかで災害が発生しても、被害を最小限に留め、
素早く確実に復旧できる、防災・防犯ともに備えができている
安全・安心に暮らせるまちを目指します。

<方針のイメージ>

方針に対するイメージ図を作成中

(2) 方針に基づく基本的な考え方

方針の実現には、災害発生による被害を最小限に留めるための事前対策（①災害に備える）、災害発生直後に迅速な対応ができる準備（②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える）、そして日常生活のなかで災害、犯罪及び事故による「もしも」を見据えた環境整備（③日頃の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる）、この3つの異なる時間軸に対する備えが有効です。

<方針に基づく基本的な考え方>

<取組の柱>

①災害に備える

- ・各地で地震や風水害が頻発するなか、災害発生前の備えとして、災害のおそれがある地域の解消や、危険な区域から安全な区域への居住誘導を進めます。
- ・また、老朽化したインフラを災害にも耐えられるように更新するほか、災害時の被害を拡大させかねない環境にある住宅地の改善に取り組みます。

① 災害リスクの低減・回避

② インフラの強化

③ 災害に強い生活環境への改善

②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える

- ・災害が発生した時にも滞りなく避難し円滑に復旧できるように、事前対応として防災拠点の整備・充実、避難場所や避難経路、緊急輸送道路の確保に取り組みます。

④ 発災時の核となる防災拠点の形成

⑤ 避難・救助しやすい道づくり

⑥ 物資や人を運びやすい道づくり

③日頃の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる

- ・日常生活から災害や犯罪、事故等による「もしも」に備えたフェーズフリー（日常と非常時を区別せず、身の回りにあるものを日常でも非常時でも役立てる考え方）なまちづくりや体制づくりに取り組みます。

⑦ 日常から災害に備えるまちづくり

⑧ 犯罪や事故の芽を摘む環境づくり

⑨ 共助の体制強化

④身近な生活道路の安全を守る

- ・身近な生活道路の安全性をさらに高め、子どもや高齢者をはじめとする市民の暮らしを守ります。

※テーマ【快適な移動】と連携した取組を推進します。

（参考）テーマ「安全・安心」に関連する第6次朝霞市総合計画の施策

【災害対策の推進】・総合的な防災体制の強化 ・防災施設などの整備

・災害（地震・火災・水害）に強いまちづくり ・避難場所・避難道路の確保

【地域防災力の強化】・防災意識の高揚 ・自主防災活動の支援 ・地域防災の連携

【消防体制の充実】・消防との連携 ・消防団の充実

【防犯のまちづくりの推進】・防犯活動の充実 ・防犯環境の整備

【公共下水道の整備】・雨水浸水対策の推進

(3) 方針の実現に向けた取組

テーマ「安全・安心」に関するまちづくり方針の実現に向けた取組を、取組展開の視点に沿って整理します。

①災害に備える

取組の柱① 災害リスクの低減・回避

【考え方】

- 頻発化・甚大化する自然災害から市民の生命と財産を守るため、災害のおそれがある地域の解消や被害を抑制する「災害リスクの低減」と、危険な区域から安全な区域へ居住を誘導する「災害リスクからの回避」の両面から対策を進めます。

【主な取組】

- ・ 災害の危険性の高いエリアからの居住の誘導（家屋倒壊等氾濫想定区域や土砂災害警戒区域等）
- ・ 水害リスクの低減に向けた雨水・排水対策の検討
（雨水貯留施設の整備、既存道路の改良、水路・側溝の改修等）
- ・ 内水被害を軽減する対策の実施（排水構造物を含めた既存道路の改良、雨水管の清掃、水路・側溝の浚渫・清掃等）
- ・ 総合的な治水対策の検討（国や県と連携した特定都市河川の指定等による流域治水の検討）
- ・ 浸水想定区域内での開発と合わせた水害対策の指導
- ・ 土砂災害の防止に向けた事業者への指導
- ・ 災害リスクのあるエリアへの福祉施設等の立地抑制 等

取組の柱② インフラの強化

【考え方】

- 上下水道施設や道路・橋梁等のインフラの老朽化の進行により、その機能や安全性が低下し災害時の被害拡大や日常生活への影響が懸念されます。そのような事態が発生しないよう、インフラの適切な維持管理・更新により安全・安心に過ごすことができる環境を整えます。

【主な取組】

- ・ 上下水道施設等ライフラインの更新・耐震化
- ・ 道路や橋梁、公園施設の更新・長寿命化 等

取組の柱③ 災害に強い生活環境への改善

【考え方】

- 災害時の被害を拡大させないため、狭あい道路の改善や建物の耐震化・不燃化等を推進するとともに、建物の更新・適切な維持管理を促し、災害に強い生活環境を形成します。

【主な取組】

- ・ 住宅密集地等の防災機能強化や私道を含めた狭あい道路の交通環境の整備、防火対策の推進
- ・ 浸透性の高い舗装整備の促進
- ・ 防火・準防火地域の指定による防火対策の推進
- ・ 防火・準防火地域での防火対策の推進
- ・ 建築物耐震改修促進計画の運用による、さらなる住宅の耐震化の促進
- ・ 建築物の耐火の促進
- ・ 老朽化マンションの管理
- ・ 建物の更新・維持管理 等

②災害が発生しても円滑に復旧できる準備を整える

取組の柱④ 発災時の核となる防災拠点の形成

【考え方】

- 災害が発生した際に避難者を安全に受け入れられる避難場所を確保するとともに、基地跡地や内間木公園等の広大なオープンスペースを持つ公園の整備にあたっては防災拠点として機能強化を検討します。

【主な取組】

- ・ 震災や水害に対応した避難場所の機能確保
- ・ 基地跡地や内間木公園等の防災拠点化の検討 等

取組をイメージさせる
写真やイラストを追加

取組の柱⑤ 避難・救助しやすい道づくり

【考え方】

- 災害が発生した際に避難場所まで安全に避難できる経路を確保するとともに、消防車や救急車が迅速に駆け付けられるような道路ネットワークを確保します。

【主な取組】

- ・ 災害時の避難経路の確保・充実
- ・ 消防車、救急車が通ることができる道路の整備
- ・ 鉄道を横断するアンダーパス部等の浸水対策の検討 等

取組をイメージさせる
写真やイラストを追加

取組の柱⑥ 物資や人を運びやすい道づくり

【考え方】

- 発災後に素早く復旧するためには、物資や人の円滑な移動が不可欠です。そのため、物資や人の移動の要となる緊急輸送道路を確保するとともに、緊急輸送道路の無電柱化を促進します。

【主な取組】

- ・ 都市計画道路の整備による広域的な緊急輸送道路のネットワークの確保
- ・ 朝霞市無電柱化推進計画に基づく緊急輸送道路の無電柱化の促進 等

取組をイメージさせる
写真やイラストを追加

③日頃の生活から「もしも」を見据えた環境をつくる

取組の柱⑦ 日常から災害に備えるまちづくり

【考え方】

- 発災時に適切な行動をとるためには、日常と非常時を区別せず、身の回りにあるものを日常でも非常時でも役立てる考え方（フェーズフリー）が大切です。そのため、災害リスクや発災時の行動に対する適切な情報の周知・発信や災害時の連絡体制の強化に取り組めます。

【主な取組】

- ・ ハザードマップ等の情報の周知
- ・ 植栽と貯水性を兼ね備えた機能の整備
- ・ 災害時を考慮したベンチ等の導入
- ・ 東京都朝霞浄水場との連携による災害時の連絡体制強化 等

取組をイメージさせる
写真やイラストを追加

取組の柱⑧ 犯罪や事故の芽を摘む環境づくり

【考え方】

- 犯罪や事故等の発生を抑制するため、危険性のある場所を把握するとともに、犯罪や事故を防ぐための環境づくりを推進します。

【主な取組】

- ・ 道路や公共空間における十分な照度の確保
- ・ 住宅地や公共空間における見通しの向上（北朝霞駅北口広場等）
- ・ 空き家の解消
- ・ 防犯カメラの設置 等

取組をイメージさせる
写真やイラストを追加

取組の柱⑨ 共助の体制強化

【考え方】

- 安全・安心を確保するためには、行政による公助だけではなく、市民同士や地域、事業者等との連携や助け合いが不可欠です。そのため、日常からお互いに助け合える関係づくりに取り組めます。

【主な取組】

- ・ 防犯・交通安全の取組等の日頃の地域活動を通じた顔の見える関係づくり
- ・ 地域との防災まちづくりの推進（防災意識の向上）
- ・ 災害時に支援が必要な方を含む地域コミュニティでの連携促進 等

④身近な生活道路の安全を守る

交通安全に関する取組は、テーマ【安全・安心】にも関わることから、テーマ【快適な移動】における「身近な生活道路の安全を守る取組（P. 41）」と連携した取組を推進します。

<安全・安心のまちづくり方針図>

